

# わが子のあゆみ



岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

2016.7 NO.443  
初夏号  
第68巻1号

## 防災スクール

今年度5回目を迎える防災スクール。「自分の命は自分で守る子に」を基本理念に、毎年1回異なるパターンの防災活動を行い、6年間で6種類の体験をします。水消火器訓練、DIG訓練、煙体験などを経験し、卒業時には「子ども防災士」となることを目指しています。



えなしりつたけなみしょうがっこう  
恵那市立武並小学校

●【学校の教育目標】 ひたむきに学ぶ子

## がんばる子らの汗と笑顔と眼差しと

恵那市立武並小学校



### 1年生を迎える会

毎年4月初に行われる児童会行事。入学したばかりの1年生に少しでも早く学校に慣れてもらいたいと在校生が楽しく一緒に遊びます。



### プール開き

昨年度新しいプールができ、気持ちよく水泳学習を進めています。夏休みもできるだけたくさん泳ぎたいと思っています。



### 武並音頭

夏休み前1、2年生に武並町に古くから伝わる武並音頭を保存会の方が教えてくださいます。8月15日の夏祭りでは地域の方の輪の中に入り子どもたちも踊らせてもらいます。



### なかよし読書

たてわりグループの高学年が自分たちのグループで読み聞かせや紙芝居を見せてくれます。高学年は何度も読む練習をして準備を進めます。低学年は楽しみにしています。



### ペア掃除

「だまって掃除」を合い言葉に、揃って挨拶、ひざをついて床掃除など、全校で一緒に学校をきれいにします。掃除リーダーの清々しい終わりの挨拶が校舎中に響きます。



### 道笛

武並町の伝統芸能「道笛」を、作り方から音の出し方で教えていただき、毎年3月の卒業前に全校に道笛演奏を披露します。

わが子のあゆみ  
2016.7 No.443 初夏号  
第68巻1号

発行：岐阜県PTA連合会  
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内  
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部  
頒価：200円 年間1,000円  
この刊物物是一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは  
058(262)3257  
県PTA連合会事務局へ





# 岐阜市立七郷小学校

【ぎふしりつななさとしょうがっこう】  
 ●住所 〒501-1161 岐阜市西改田川向94-1  
 ●TEL (058)239-7330  
 ●FAX (058)239-7333  
 ●メール gisyo28@nanasato-e.gifu-gif.ed.jp  
 ●児童数 702名



## 校歌

### 七郷小学校校歌

作詞 国枝 稔  
 作曲 安井 万治

一、ひろい青空 ひかる雲  
 朝のひざしに むねはつて  
 そろう瞳は うつくしい  
 みんな仲よく 手をくんで  
 あすのそなえに 学ぶのだ  
 二、とおい野のすえ かおる風  
 からだきたえて のびようと  
 はげむ心は たくましい  
 みんな仲よく 呼びあつて  
 あすのきぼうを 歌うのだ  
 三、すすむれきのし 足なみに  
 そだつ七郷 ぎふの子の  
 高いのぞみは はてしない  
 みんな仲よく とけあつて  
 あすの日本を 築くのだ



◀「おはようございます。」  
とあいさつタッチ

## 心豊かで たくましい 七郷の子

～進んで学ぶ子・助け合う子・きたえる子～

### 沿革・地域の自然や風土

明治六年（一八七三年）に「昇曦学校」という校名で設立された本校は、開校以来四〇年以上の歴史を誇っています。

校区は岐阜市の西部に位置し、近年の道路整備により宅地化が進んでいる一方、田畑や果樹園など豊かな自然にも囲まれている地域です。

地域の学校教育に対する関心は高く、総合的な学習の時間やクラブ活動等において、地域ぐるみの支援が得られています。また、「ミニ」ティスクールの指定を受けてからは、地域との連携がより強化され、人材バンクの充実をはじめ、様々な支援体制が整ってきました。

P.T.Aも学校の応援団として、年度のテーマに基づいた活発な活動が繰り広げられています。

地域で出会う多くの人々は笑顔で挨拶を交わすなど、人の輪が築かれており、子どもたちは、そうした環境の中で、元気に学校生活を送っています。

児童は、「歯みがき、あいさつ、そうじ、はつげん」の四つの自慢を更に高めていくと頑張っている学校です。

つをする姿」が多く見られ、気持ちのよいあいさつができる児童が増えています。児童会では、そうしたよい姿を放送で紹介し、認め広める活動も行っています。

他にも、「朝のあいさつ」だけでなく、「ありがとう」や「お願ひします。」といった心をつなぐことばも大切に、互いに気持ちよく学校生活を送れるようあいさつを磨いていきます。

昼休みの終わりを告げるチャイムが鳴ると、運動場で遊んでいた児童が一斉に掃除場所に向かい、掃除を始めます。「黙って、時間いっぱい一生懸命に掃除に取り組もう」を目標に、「もくもくそうじ」をスローガンに掲げて取り組んでいます。

自分の目で床や壁、窓などをしっかりと見て汚れを見付け、細かいところまで掃除する姿も見られます。

▶細かなところまで掃除の姿を...

### 歯みがき

本校では、「七・三歯みがき」という独自の取組みを通して、自己をみつめ、主体的に歯と口の健康を守る児童の育成をめざしています。

給食後の歯みがき「歯ピカタイム」では、曲に合わせて「七郷三周みがき」を行い、毎週木曜日にはテレビ放送で、みがき方を確認しています。

「八」のつく日は、保健委員の「歯みがき見守り隊」が各クラスで歯みがきのポイントを教えた後、歯ブラシチェック等を行ったりしています。特に、見守り隊やデジタルフロス教室では、児童同士の教え合いを大切にしています。



▲見守り隊による歯ブラシチェック



▲汚れを見付けて集中みがき

環境委員会では、掃除に対する意識を高めるために、取組みの様子を見える化するなど、キャンペーン活動を工夫しています。また、児童会では、「もくもくそうじ」を達成した学級や班、児童をお昼の放送で紹介し、「もくもくそうじ」ができる仲間を増やしています。

授業では、「はつげん」を自慢としています。「聞く」「話す」名人として、それぞれ四つのポイントを示し、毎月、重点目標を決めて取り組んでいます。

聞き名人	話し名人
1 目線	1 目線
2 聞き耳	2 はげり
3 うなずき	3 わけ
4 反応	4 つなぎ

学期に一度は、学校歯科医の先生から直接歯みがきの仕方を教えていただき、ハイルスクの児童には、個別に指導していただいています。

また、校内だけでなく、外部にも啓発活動を行っています。

P.T.A活動では、年四回の親子歯みがきを実施して、その状況を家庭に伝えています。

近隣の幼稚園や保育園へは、本校独自のキャラクター「ハミガキング」が訪問し、児童が作成したビデオレターを使って歯みがきの大切さを伝えています。

地域へは、全校に募集した標語をポスターにして、商業施設や公共施設に掲示していただいています。



▲児童集会で、ハミガキングと一緒に

こうした取組みを続けてきた結果、「岐阜県特選校」に選ばれたとともに「日本歯科医師会会長賞」を受賞し、全校のむし歯の

活気のある授業を目指して、まずは「めざせ全員挙手」の取組みを行っています。各学年や学級の実態に合わせて、お互いの発言内容に反応しながら、考えを深めていくようにしています。

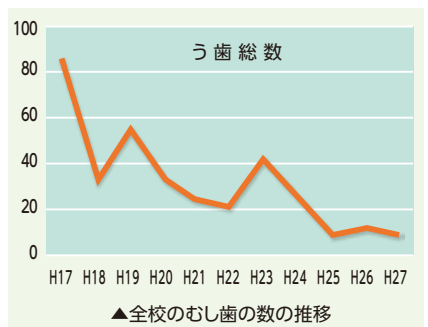


▲ピン挙手に伝えたい気持ちをこめて

ペアやグループでの学習を取り入れ、自分の考えを話す機会を多く位置付けることによって、自ら学ぶ姿勢づくりや発言力の高まりへとつながっていくと考えています。

また、「足ヒタ」を中心とした聞く姿勢を身に付け、話し手が安心して意見を言える聞き手の姿も大切にしています。こうした取組みにより、全校児童七百人以上が集まった場でも、静かに話を聞くことができている。

二学期には、「ノート展」を行います。自分の考えや思いを整理することができ、学習内容の



数は九本となりました。しかし、歯肉炎はなかなか減少しない現状があり、歯列や歯肉炎等にも効果があると言われる「あいさつ体操」を取り入れ、全校で週三日、朝の会のはじめに行っています。

あいさつを活発にし、「ななさとあいさつするデー」を決め、あいさつ運動を行っています。「ななさと」にちなんで、週に一度「七三〇」のつく日、週に一回「七三〇」のつく日に、児童会の企画委員と学級当番全員が正門と南門に並んで、登校してくる児童にあいさつタッチをしています。「大きな声であいさつをする姿」目を見て頭を下げてあいさつ

振り返りがしやすいノート作りに挑戦します。ノートは発言を支えるための道具として大切なものです。仲間のノートを参考にしたり自分の使い方を振り返ったりすることで、考えをまとめる力を高め、今以上に自信をもった発言につながっていくことを願っています。

### 交流教育

本校は、昭和五十四年七月に現在の地に移転しました。その旧校地に岐阜養護学校（現在の岐阜市立岐阜特別支援学校）小・中学部が下川手から移転してきました。新築された校舎に通うことになった本校の子どもたちは、岐阜養護学校となった旧校地を懐かしく思い、登下校の途中に立ち寄っては、児童や先生たちと話を交わすようになりまし

た。その様子がそれぞれの学校の児童、教師、保護者、地域の人のたちの間で話題になり、昭和五十七年度に正式に交流教育活動が始められました。三十年以上の歴史のある交流教育は、人と人とが気持ちを通わせ、互いを思いやり、仲間意識を育みながら共に育つことの大切さを学ぶ場になっています。





# 垂井町立府中小学校

【たるいちよりつふちゅうしょうがっこう】  
 ●住所 〒503-2114 不破郡垂井町府中464  
 ●TEL (0584)22-1018  
 ●FAX (0584)24-1067  
 ●メール fes30225@he.mirai.ne.jp  
 ●児童数 302名



## 学校の教育目標 ふるさとを愛し 気づき考え実行する子 ～なかよく かしこく たくましく～

### 沿革・地域の自然や風土

本校は、明治六年の二月十二日に「集学義校」として創立しました。同年十月には、「集学学校」と名前を変え、寺子屋式で勉強をしていました。読書・習字・算術(今の算数)だけの授業でした。明治八年になると、西洋式の机や椅子、黒板を使って教える形になり、生徒数が、三三三名と不破郡で一番多かったです。集学学校は、明治十九年十月に府中尋常小学校・府中簡易小学校と名前が変わり、昭和二十九年に「垂井町立府中小学校」と改称し、現在に至っています。



▲在りし日の「集学義校」(安立寺)

す。また、「集学義校」の校風のものと、学校教育に対する保護者や地域の関心が高い地域でもあります。学校教職員と家庭・地域社会が連携し、子どもたち一人一人に、「たくましく生き抜く強さ」や「共に支え合う温かい心」を育てていくことに努めています。

### 「誇り」に思える学校

学校が「楽しい」「好き」という子がたくさんいます。その思いを「誇り」に変えられるように取り組んでいます。

①【豊かな心づくりにめざして】合唱や縦割り遊び等を通して、より良いものを求める心や共に支え合う心を育てることを目指しています。

②【確かな学びづくりにめざして】自力で課題に立ち向かい、自分の考えをもち、仲間と考えを交流する中で、考えを深めることができるよう、子どもが主体となった授業づくりに心がけています。

③【健やかな体づくりにめざして】自らの体を鍛えると共に、「自分の命は自分で守る」を大切にしながら交通安全教室や命を守る訓練等の充実、日頃からの安全指導に心がけています。

### 同年齢集団活動 (歌声づくり活動)

本校は、豊かな表現力やより良いものを求める心を育てるために、学級や学年による同年齢集団活動(歌声づくり活動)を大切にしています。



▲仲間と創り上げる「歌声交流会」

子どもたちが、「歌声を仲間と創り上げる」という気持ちで練習に取り組みすることで、集団としての表現力を高めたり、一人一人に自信をもたせたりすることをねらって、各学年による「歌声交流会」の場を位置付けています。また、十月には、学年で取り組んできた歌声づくり活動の全校

発表の場として、「かしの木文化祭」を行っています。幼稚園や保育園も一緒に参加することで、さらに笑顔いっぱい楽しい活動になっています。

その他には、さらに質の高い歌声をめざしたリーダーを育てるために、毎年、四年生以上から希望者を募り、NHK全国学校音楽コンクールや垂井町の音楽祭に参加しています。これらの取組みを通して、高学年の歌声にあらがれ、その歌声に近づいていくという意欲を高める低学年が増えています。また、歌声づくり活動を府中小学校の伝統として、低学年に伝えていくことを高学年の心も育てています。



▲「NHK全国学校音楽コンクール」出場



▲全校で歌声を響かせ合う「かしの木文化祭」

## 校歌

### 府中小学校校歌

作詞 山口 正  
 作曲 不詳

一、東の海の 空遠く  
 昇る朝日に ゆらゆらと  
 あつらわしの 桜花  
 あすの日本が まつている  
 みんな仲よく いつまでも

二、緑の風の 吹く庭に  
 高く茂って ゆれている  
 あなつかしの 榎の木よ  
 つよく おおしく さわやかに  
 青い芽をふけ いつまでも

三、流れる雲に 草苗を  
 吹いて通った 故郷の  
 あゝ思い出の 山や川  
 大きな夢が みのる日を  
 待っていてくれ いつまでも

### 異年齢集団活動 (かしの木活動)

共に支え合う温かい心を育てるために、「かしの木活動」を位置付けています。全校を十二のグループに分けた縦割り集団による「かしの木グループ」で活動しています。「榎の木」が本校のシンボルであることから名付けられました。主な活動としては、毎週木曜日の行間休み(太陽の時間)に行う「かしの木遊び」や、行事として行う「かしの木グループ始めの会(二年生を迎える会)」、「かしの木グループお別れ会(六年生を送る会)」があります。



▲楽しい「かしの木グループ始めの会(1年生を迎える会)」

高学年は、リーダーとしての自分の役割を自覚し、責任をもつて行動することや、低学年に

### 自然の素晴らしさを 実感できる体験活動 (地域ボランティアとの連携)

府中地域農地・水環境保全組合の方々の協力をいただきながら、豊かな自然の素晴らしさを実感することができている活動を行っています。

例えば、五年生は、小学校近くの田んぼで田植えや稲刈り、脱穀体験をします。伝統的な農作業を体験することで、農業への理解が深まっています。また、収穫したお米の一部は、府中保育園



▲たくさんとれた「もち米の収穫」

### 府中地区子ども見守り隊とNPO 子ども見守り隊

地域の方々が、子どもの登下校の安全確保のために、毎日、見守り隊として、ボランティア活動をしていただいています。子どもたちと共に分団の登下校について歩いてくださる方や交差点に立つて交通安全を見守ってくくださる方など、合わせると二〇名近くにもなります。学校では、毎朝、子どもたちの元気なあいさつが響きわたっています。こうした学校生活をスタートすることができるようにも、見守り隊の方々のお力のおかげです。



▲いつも安全を見守ってくださる「見守り隊」





# 美濃市立中有知小学校

【みのしりつなかうちしょうがっこう】  
 ●住所 〒501-3756 美濃市生櫛1614番地1  
 ●TEL (0575)33-1115  
 ●FAX (0575)31-0117  
 ●メール nakauchi-e@edu.city.mino.gifu.jp  
 ●児童数 228名(2016.5.1現在)

## 校歌

### 中有知小学校校歌

詩 西部 曉村  
 曲 鶴飼 幹夫

一、長良の川瀬 水清く  
 はすむぼくらの 歌声は  
 松鞍山に こだまする  
 友と仲よく 手をつなぎ  
 たゆまず学び 考える  
 中有知小の 明るい子

二、みどりに映える 向野に  
 くつきり浮かぶ 松の枝  
 見あげるひとみ さわやかに  
 この手この足 たくましく  
 希望の明日を きり開く  
 中有知小の 元氣な子



▲1年トウモロコシの収穫



▲2年ジャガイモの収穫



▲3年大根販売



▲4年ホタル幼虫の放流



▲5年収穫祭 おはぎ作り



▲6年デイサービスセンター訪問

【四年生】  
 ホタルの卵をふ  
 化させて幼虫を飼  
 育し、近くの川に  
 放流しています。  
 五月には、多くの  
 ホタルが飛び交う  
 姿が見られます。



▲なかよし活動 8の字跳び

また、十一月には、「なかよしの  
 日」として、「三運動会」を行って  
 います。十六のなかよし班を四  
 つのチームに編成し、つなびぎ、  
 大縄跳び(8の字跳び)、台風の  
 目、大玉ころがしの四種目で競  
 い合っています。終了後には、な  
 かよし班ごとに弁当を食べて、  
 楽しい一時を過ごしています。こ  
 れらの取組みを通して、児童は  
 思いやりの心を育むと共に、信  
 頼関係を築いています。

## 豊かな心でたくましく生きぬく子を育てる

なかよく助け合う子 かんがえて行動する子 うつくしさを求める子 ちから強く立ち向かう子

### 治郷地域の自然や風土

明治六年に開校された修徳学  
 校を前身とし、明治二十四年に  
 中有知尋常小学校として創立さ  
 れました。昭和二十二年に中有  
 知村立中有知小学校、昭和二十  
 九年には市政施行により美濃市  
 立中有知小学校と改称され、現  
 在に至っています。

校区は美濃市の南端に位置  
 し、東海北陸自動車道の美濃IC  
 もあることから、美濃市の玄関  
 口となっています。

学校が位置する生櫛地区は、  
 長良川の中洲であったところで、  
 水はけのよい土地を利用して、  
 大根などの栽培が盛んです。ま  
 た、本校の西には世界農業遺産  
 に登録された「清流長良川の鮎」  
 で有名な長良川が、東には世界  
 かんがい施設遺産に登録された  
 曾代用水が流れています。

### 中有知小学校 三つの伝統

本校では、全校のリーダーで  
 ある六年生を中心に、学校生活  
 の向上をめざした取組みを充実  
 させています。「あいさつ」「そ  
 うじ」「合唱」の三つを中有知小  
 校の伝統として、全校で取り組  
 み、学校の自慢となっています。

### ① あいさつをつなぐ

#### 「あいさつ」への取組み

本年度は、四月初めに六年生  
 が、私たちのめざすあいさつとし  
 て「先がけあいさつ」元氣笑顔あ  
 いさつ「アイコンタクトあいさつ」  
 の三つを提案しました。そして、  
 児童委員会が中心になって、始  
 業式当日から「スタートダッシュ  
 あいさつ運動」を進めました。ま  
 た、毎朝、児童委員が校内を回  
 りながら、あいさつを投げかけて  
 おり、校内には明るく元氣なあ  
 いさつが響いています。これ  
 から、児童が主役となった取  
 組みを進めていきます。



▲あいさつ通り

### ② 心を磨く

#### 「せつせそそうじ」への取組み

掃除では、「せつせそそうじ」  
 「じ」に取り組んでいます。  
 「せつせと集まる」  
 「すみずみまで掃除」  
 「せつせと体を動かす」  
 「せつせと道具をかたづけ

「せつせと集まる」ではチャイムで  
 掃除を始めることを、「すみずみま  
 掃除」では無言で掃除すること  
 を、「すみずみまで掃除」では棧  
 や敷居などすみずみまで掃除す  
 ることを、「せつせと体を動かす」  
 ではてきぱきと動くことを、「そ  
 うじ道具をかたづける」ではだれ  
 が見ても気持ちのよい片付けを  
 することをめざしています。美  
 化委員会を中心に、キャンペーン  
 を行って掃除への意識や技能を  
 高めています。学年間で掃除を  
 交流しながら、掃除への意欲や



▲掃除「せつせと体を動かす」

姿勢を高め合う取組みも行って  
 います。

また、六年生は、美濃中学校の  
 生徒との交流を行い、掃除に向  
 かう姿勢や掃除の仕方を学び、  
 伝統の掃除を高めています。

### ③ 心をこにする「合唱」への取組み

音楽に親しんだり、全校の仲  
 間で歌うことの喜びを味わった  
 りすることをめざして、全校合  
 唱を行っています。文化委員  
 が中心となって、毎月、歌声集  
 を開いています。歌声集では、  
 文化委員が今月の歌のポイント  
 を指導したり、範唱したりしな  
 がら、全校で合唱に取り組んで  
 います。そして、歌声集会で学  
 だことを生かして学級ごとに練  
 習に励み、合唱を高めています。  
 また、二月の学習発表会では、  
 取組みの成果を保護者や地域の  
 皆さんに披露しています。



▲全校合唱(歌声集会)

### 地域と深く 関わる体験活動

生活科や総合的な学習の時間

の授業を中心として、地域の人  
 や自然との関わりを大切にした  
 体験活動や文化活動等を進めて  
 います。指導者を広く地域に求  
 め、地域の皆さんとの交流を通  
 じて、地域に学び、地域に愛着と  
 誇りをもてる児童の育成をめざ  
 しています。

#### 二年生

地域の畑で、トウモロコシを栽  
 培し、収穫したトウモロコシを

全校で試食しています。また、家  
 庭に持ち帰って、家族といっしょ  
 に調理して食べています。家族で  
 会話がはずみます。

#### 二年生

地域の畑で、ジャガイモを栽  
 培しています。収穫したジャガイ  
 モを試食するとともに給食セン  
 ターに提供し、市内全小中学校  
 の皆さんにも食してもらってい  
 ます。二年生は、自分たちが役  
 立ったことに喜びと誇りを感じ  
 ています。

#### 三年生

地域の畑で、特産である大根  
 を栽培しています。千本ほどの

大根を収穫し、道  
 の駅で販売してい  
 ます。毎年またた  
 く間に売り切れる  
 ほどの盛況ぶり  
 です。収益金の一部を  
 寄付に充て、社会  
 に貢献することの  
 大切さや喜びも感  
 じています。

#### 四年生

ホタルの卵をふ  
 化させて幼虫を飼  
 育し、近くの川に  
 放流しています。  
 五月には、多くの  
 ホタルが飛び交う  
 姿が見られます。

ふるさとのよさを実感すると  
 もに、ふるさとの自然を大切に  
 たいという思いを高めています。

#### 五年生

地域の田で、米づくりを行って  
 います。もち米を栽培し、収穫し  
 たもち米を使っておはぎと丸餅  
 を作り、全校児童に配っていま  
 す。おはぎは学校で試食し、丸餅  
 はお土産として家に持ち帰りま  
 す。米づくりについてさまざまな  
 ことを学ぶと共に、地域の方と  
 ふれあったり、食料生産について  
 学んだりする機会ともなってい  
 ます。

#### 六年生

病院や福祉施設を訪問し、交  
 流活動を行っています。「感謝」を  
 キーワードとして地域貢献活動  
 を行うことで、地域の二員として  
 の自覚を確かなものにしていま  
 す。また、中有知への愛着がま  
 ます深まっています。

### 全校みんなが なかよし「なかよし 活動」の時間

全校児童三二八人を十六の縦  
 割り班(なかよし班)に分け、学  
 年の別なく仲よくできる中有知  
 小学校をめぐって活動していま  
 す。週一回実施している「なかよ  
 し活動」の時間には、前期は「8  
 の字跳び」、後期は「全員跳び」に  
 取り組んでいます。六年生を中  
 心に、なかよし班のメンバーが団  
 結し、自己記録の更新をめざし  
 ています。高学年はリーダーと  
 しての自覚をもち、中学年は自  
 分たちが貢献できることを工夫  
 し、そして低学年はみんなで力  
 を合わせるこの大切さや喜び  
 を学ぶ機会となっています。「8  
 の字跳び」の成果は、運動会で披  
 露しています。

また、十一月には、「なかよしの  
 日」として、「三運動会」を行って  
 います。十六のなかよし班を四  
 つのチームに編成し、つなびぎ、  
 大縄跳び(8の字跳び)、台風の  
 目、大玉ころがしの四種目で競  
 い合っています。終了後には、な  
 かよし班ごとに弁当を食べて、  
 楽しい一時を過ごしています。こ  
 れらの取組みを通して、児童は  
 思いやりの心を育むと共に、信  
 頼関係を築いています。





# 下呂市立下呂中学校

【げろしりつげろちゅうがっこう】  
●住所 〒509-2202 下呂市森455-1  
●TEL (0576)25-2732  
●FAX (0576)24-1051  
●URL <http://www.gero-j.ed.jp/02school/each/2016/gero-j/index.html>  
●メール [gero-j@fcis.gero-j.ed.jp](mailto:gero-j@fcis.gero-j.ed.jp)  
●生徒数 236名



▲大合唱!パパママコーラス

今年度、八十名のハーモニーが下呂交流会館泉ホールに響き渡りました。夜五回の練習を行い、和気あいあいとした中で、合唱の質にもこだわることができました。当日は「糸「あなた」」を披露しました。審査員の先生に「大人の合唱とはこのように気持ちを伝えるものだと教えてもらいました。金賞です!!」とお褒めの言葉をいただきました。参加した母親からは「パパママコーラスに参加させていただき、子どもたちと同じステージで合唱する事の楽しさと緊張感、また、普段で



▲選択体験学習

理解したりすることを通して、人の生き方について考えるきっかけにするために「年生で選択体験学習を実施しています。講座の内容は、写真・茶道・華道・そば打ち・囲碁将棋・ゴルフ等、普段はなかなか経験できない講座を地域の方の協力を得て実施しています。目を輝かせながら取り組む生徒の姿に手ごたえを感じることが出来ます。

⑤大合唱!パパママコーラス  
今年度、八十名のハーモニーが下呂交流会館泉ホールに響き渡りました。夜五回の練習を行い、和気あいあいとした中で、合唱の質にもこだわることができました。当日は「糸「あなた」」を披露しました。審査員の先生に「大人の合唱とはこのように気持ちを伝えるものだと教えてもらいました。金賞です!!」とお褒めの言葉をいただきました。参加した母親からは「パパママコーラスに参加させていただき、子どもたちと同じステージで合唱する事の楽しさと緊張感、また、普段で



▲三年生と語る会



▲命のふれあい講座

三、雄々しく伸びる 飛騨山の  
豊かな自然に 育まれ  
若き精神を よどみなく  
求めん我等 集いきて  
英知あふるる 学舎を

二、清く流るる 益田川  
おどるしづきに 陽は上り  
若き生命は たくましく  
鍛えん我等 励まして  
学舎を

一、緑に映ゆる 湯ヶ峰に  
さやかにあすの 朝は明け  
若き希望を 高らかに  
歌わん我等 手をとりて  
友情あふるる 学舎を

⑥三年生と語る会  
全校が縦割り十八グループに分かれ、三年生と語る会が実施されました。三年生一人ひとりが三年間の自分の歩み振り返り、部活動での体験や進路に向けての取り組み方等、色々な角度から自分がどう生きてきたかを語ってくれました。成功のためのノウハウを丁寧に語る姿もあれば、失敗経験を赤裸々に語る姿もありました。二年生もそんな姿に対して、心に感じ

⑦命のふれあい講座  
養護教諭部会が中心となり、下呂市命のふれあいサポートスタッフ、下呂温泉病院及び市内外在住助産師、市内乳幼児・乳児学級、PTAの方に「ご協力いただき、三年生を対象に命のふれあい講座を実施しています。第一回目は「命について考えよう」をテーマに妊婦体験や胎児体験を行いました。第二回目は「おさない命とふれあおう」をテーマに児童館で託児体験や母親との座談会を行いました。第

三回目目は「性教育講演会・生命」をテーマに、人間と性・教育研究協議会の先生にご講演頂きました。様々な体験を通して生徒たちは「命」についてみづめりつけかけとなりました。

## 校歌

### 下呂中学校校歌

作詞 今井政美  
作曲 田丸利定

## 学校の教育目標 ひとり歩きできる生徒

・頭を使おう ・心を拓こう ・身体を動かそう

①質の高い授業づくり  
七項目からなる下呂中「学びのあたり前」をもとに、聞く姿勢や話す姿勢、わからないことや困っていることを出せるな

活動の内容  
学校のたからもの

②質の高い日常づくり  
いつでもどこでも誰にでも、気持ちよい声を交わし合う挨拶。靴箱や廊下の制服、教室のロッカーなど、いつも整然と整頓されている環境。さらには、三年間厳しい練習に打ち克つた部活動など、中学校生活は自分磨きの三年間として位置づけ、社会人としてのあたり前、ホスピタリティー(おもてなし)の精神、マナーや礼儀、社会性など、人として生きる基本を身につけます。

③質の高い集団づくり  
「日常」を大切にして、あたり前のことがあたり前にできる集団。一人ひとりが係としての役割を受け持ち、誰もがリーダーとして仲間のために本気で働きかける集団。話し合いの活動を通して、仲間の気持ちを考え合ったり、指摘し合ったりできる集団。そんな集団づくりの集大成として、運動会や合唱祭などの行事では、学級の仲間の絆や団結力を力いっぱい発揮します。

④選択体験学習  
自分の興味・関心のある活動を体験することを通して、自分の将来の夢や進路についての関心を高めます。また地域の講師の方とふれあったり、地域のことを

昭和四十四年に下呂中学校・上原中学校・中原中学校の統合により、現在の下呂中学校となりました。本校は下呂市の中心部に位置し、近くには天下の三名泉の一つとして有名な下呂温泉があります。校区は、温泉街を中心とした市街地の下呂地区と川沿いに住宅地と農地が広がる上原地区、中原地区から成り立っており、観光と農林業が盛んな地域です。

治平地域の自然や風土



▲質の高い授業づくり



▲質の高い日常づくり



▲質の高い集団づくり



# わが子のあゆみ

2016.7 No.443 初夏号

表紙 恵那市立武並小学校

学校のたからもの 1

岐阜市立七郷小学校/垂井町立府中小学校/美濃市立中有知小学校/下呂市立下呂中学校

わが家の宝物 瑞浪市立瑞浪中学校PTA 有賀 誠 9

特集・子育て 仕事 PTA 11

多治見市立市之倉小学校PTA 兼瀬直子  
美濃市立美濃中学校PTA 平成27年度会長 佐合大介  
高山市立松倉中学校PTA 会長 下裏直哉  
美濃加茂市地区連合PTA 平成27年度母親代表  
美濃加茂市立峰屋小学校PTA 服部ひとみ  
大垣市立中川小学校PTA 平成27年度会長 箕浦利仁  
岐阜県PTA連合会 平成27年度母親代表副会長  
本巣市立真正中学校PTA 村瀬里佳

家庭教育応援団! ⑳

家庭教育とは  
「話そう! 語ろう! わが家の約束」運動 17

シリーズ「療育」㉔ 岐阜県立岐阜希望丘特別支援学校 19

お弁当の日 関市立金竜小学校PTA 21

保健室ノート 北方町立北方西小学校 養護助教諭 足立千春 23

私の先生㉒ 郡上市立八幡小学校 教諭 小田百合思 25

子育て半生紀 下呂市立尾崎小学校平成27年度PTA 会長 北畑敏彦 27

ふれあいニュース [vol.1] 29

富加町立富加小学校PTA  
七宗町立上麻生小学校PTA  
八百津町立東部中学校PTA  
東白川村立東白川中学校PTA

私が出会った1冊の本【続26】 31

瑞浪市立稲津小学校PTA 母親副委員長 成瀬直子  
各務原市立那加中学校PTA 書記 畠山聖乃

わが家の約束 33

恵那市立大井小学校PTA 会長 田中孝夫  
池田町立池田中学校PTA 会長 野原勝樹

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い  
各務原市立蘇原第二小学校 3年 金武凜花  
池田町立八幡小学校 6年 安田光里  
関市立下有知中学校 3年 山田彩世

親の願い  
本巣市立真桑小学校PTA 会長 林 りえ  
中津川市立付知中学校PTA 会長 岸 竜平

教育の窓  
高山市立栴尾小学校 教頭 松井健治  
瑞穂市立穂積中学校 教諭 広田貞子

親子ではてな 40

インフォメーション 41

お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42  
夏野菜のカレー

ふるさとの伝承 43

郡上市立明宝中学校

きらり!キッズ! 45

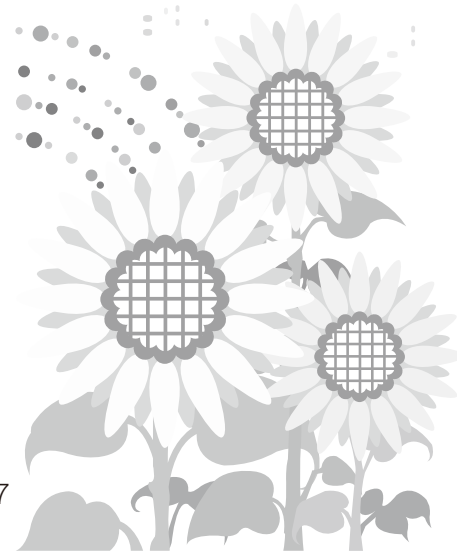
郡上市立大和南小学校

夢中!熱中!我らが部活 47

岐阜市立長良中学校

私たちのPTA 49

安八町立登龍中学校PTA



## わが家の宝物

瑞浪市立瑞浪中学校  
PTA 有賀 誠

### 無形でも「絆」という人との繋がりが

何気ない毎日、当たり前のように昇る朝日。でも、災害は突然にやってきます。四月十四日、二十時二十六分、M6.5の前震、四月十六日、一時二十五分、M7.3の本震が熊本を突然襲いました。今もなお続く余震の恐怖や、家族を失い何気ない日常が失われたことなど、私たちの想像を絶する現実を毎日のニュースなどで見ていると、家族皆で、普通に過ごしている日々感謝する気持ちを忘れないでいたいと思います。

「わが家の宝物」というテーマをいただき、考えたときに何があるのか……でも、それは今までの生活の中で、形のあるものなどいろいろ考えてみましたが、やはり家族ではないかと思います。

子どもたちの笑顔や成長は、どここの家庭でも同じだと思いましたが、楽しみです。

長男は中三、高校受験頑張っています。次男は小学五年、スポーツ少年団の野球、頑張っています。月並みではありますが、「わが家の宝物」です。





# 子育て

# 仕事

# PTA

ある日、PTAから役員のある指名が来た。現状無理！でも、引き受けた。大変だったが、乗り切った。その結果……

平成二十八年三月記

## PTAからいただいた果実

多治見市立市之倉小学校PTA

兼瀬直子

私は現在、小学生の子どもを二人持つ、普通の母親です。

上の子が小学校へ入学した時は、PTA総会でお話する方々が、雲の上の人のよう存在でした。ですから、まさかPTA本部役員をやることになるとは、露ほどにも思っていませんでした。

ところが、長男が三年生になり、長女が一年生に入学する事になった時、色々な理由から、だんだんPTA活動に興味が出てきて、今回、文化委員のお仕事を任せられることになったのです。これは、私にとって思い切った、大きな挑戦でした。

なぜなら私は、平日は会社に勤めていますし、まだ下の子は、保育園を卒園したばかりの甘えん坊。会社から帰宅しても、なかなか自分の時間さえとれない中で、最大限、どうやって時間を有効に使うかが勝負と思って挑みました。

文化委員の仕事は、PTA会報の発行（年三回）・教育講演会の開催・資源回収・運動会の準備・月例役員会への出席など。

主にこのような仕事です。

PTA会報とは、学校新聞のような冊子です。小学校では季節に応じて様々な行事が催されていますが、それを文化委員が取材・撮影して記事にします。この仕事を全て自分一人で成し遂げることは不可能です。

そこで、各クラスから選出された十二名の文化委員と分担して行う事にしました。この取材資料を集めて、週末に我が家のパソコンで連結させます。ですから、会社の仕事をほとんど休むことなく、作業を進められたのです。

また、文化委員が全員集まる会議を開かずとも、連絡はLINEやメールで行い、報告も綿密に行っていましたので、問題はありませんでした。チームワークの良さが成功のポイントとなったのです。



したら、素敵に輝けるよ。」ということでした。

この一年間、家庭では見ることができない子ども達の様々な姿や、成長した姿を見ることができました。

また、子どもと一緒に同じものを見て体験する大切さを痛感しました。

そして、何より先生方、保護者の皆様、また一緒に協力した仲間達に、感謝の気持ちを伝えたいと思っています。ありがとうございました！

## PTA会長の役目を終えて

美濃市立美濃中学校PTA

平成二十七年年度会長 佐合 大介

PTA会長を決めるにあたって、過去に役員経験者は免除という暗黙の了解という流れがありました。

「ウチは出来ない、やれない」と逃げ口上ばかりの中、いつまでたっても話し合いでは決まらず、クジ引きでわたくしに決まりました。決まったという一報を受け、元々の性格があり覚悟を決めてしまいました。いざふたを開けてみると、中学の会長だけではなく美濃市連合PTA会長兼任という

事も初めて知りました。引継ぎを受けるも何が何だか分かりません。それでも分からないなりにインターネットで調べ、まずは入学式が初仕事。完全に緊張していました。正直、完璧に出来るとは思っていませんでしたが、人前で話す難しさを痛感しました。それでも毎月ある会議などで話すことが増えていったので徐々に慣れてきました。連合PTAの方では充て職が割り振られ、教育に関して色々なNPO法人団体があることを知りました。

毎月の中学校での会議で学校に出入りするようになり、夜遅くまで残られている先生方を見て、よほどの情熱がない限りこの職務は務まらないと思いました。その一部の答えは卒業式の時に知ることになりました。私自身も感動で泣いていましたが、同じように泣いている先生方を見てそう思いました。

連合PTAの方でも、数多くの会議に参加して思ったのが、教育というものに対して、そして子どもたちに対してこんなにも考えて下さっている人達がいるという事。このような話を子どもたちに聞かせていく中で子どもにも変化があり、勉強に真剣に打ち込む姿勢・生活態度・ボランティア・合唱等に参加する意欲を見せるようになり、親として驚くべき変化でした。



教育講演会の開催は、文化委員会の最も大きな仕事でした。今年のテーマは「消防音楽隊コンサート&親子で火災を考える（体験型プログラム）」と決め、児童と親子、また地域の方々と団結して素晴らしい成果が得られました。計画をする段階では多くの課題があり、何度もくじけそうになりましたが、委員同士の協力、先生方のアドバイスで、講演会を大成功させることができたのです。

役員任期が終わろうとしている今、あっという間の一年間だったと感じています。沢山の楽しい思い出があり、沢山の失敗と反省があります。できることなら、もう一度やり直したい気持ちでいる私ですが、この思いは次期役員さんに伝えていきたいと思っています。

この経験を通して、私が今、皆さんに伝えたいのは、「大人も子どもも、今できる精一杯の力を振り絞って、目の前のことに挑戦



事前に聞いていた話と異なり、仕事もさほど休む事無く、妻の協力もありながら、会議の時は早めに仕事を終わらせてもらうなど会社側の協力もあって何とかこの一年、PTAの活動をしてきました。

先生という職業を余りにも知らなさ過ぎた世間知らずな自分でしたが、PTAを通じて多少知ることが出来ました。非常に貴重な経験をさせて頂き有難うございました。

## 期間限定、得難い経験をPTAで

高山市立松倉中学校PTA

会長 下裏直哉

PTAの役員、特に会長職を受けた時に、一番つらいのが次の役員をお願いすることでした。お忙しい人ばかりで、中々役を引き受けてもらえない。どうしよう・・・と不安になっていて「私で良ければやりますよ。子どもが学校でお世話になっているのですから」とおっしゃっていただけの方がみえます。

こんな時は、本当にうれしく、感謝の気持ちでいっぱいになります。

## 私は、一人で子育てをしているんじゃない

美濃加茂市地区連合PTA 蜂屋小学校PTA

平成二十七年年度母親代表 服部ひとみ

PTAの役員を引き受けた時、周囲に言われた一言は「よく引き受けたね、これから一年大変そうだね」でした。ですが、その時の私は「PTA」という役割がある事は知っていても活動内容はほとんど知らず、どんな事をするのか、何が大変なのかわからないまま引き受けたのがはじまりでした。

一年経って今、結論から言う子どもがいて、仕事をしながらPTA活動に参加するのは正直一人では無理な事でした。PTA活動の内容事態は学びのある有意義な活動ばかりでしたが「子どもを預けて、仕事の調整をしてPTA活動に参加する」という点から言うと大変だったと言えるかもしれません。

ですが、子どもが学校に通っている、今しかできない母親代表という役を任せて頂けたのは、母親として子育てをしていく中でも学びの深いものとなりました。PTA活動を通して、一番私自身が得た事は「私は一人で子育てをしているんじゃない」と改めて気付けた事です。

役員をお願いするのは、つらい。これを実感すると、逆に人から頼まれた時には、断りづらくなります。今年役員を受けられた方の中にも、そんな方がみえるのではないのでしょうか。

PTA役員は、自治会などの役員と違って、子どもが就学している期間しか就任することはできません。子どもが卒業してから、やっぱりやっておけば良かったと思つてみたところで、後の祭りです。PTAは確かに大変なところもありますが、一般の保護者よりも学校との関わりが深くなる分だけ、学校や先生のことがよく分かります。また、自分の子どもや友達だけではなく、多くの子どもたちの様子が分かります。

さらに、子どもと関わることによって、自然と子どもたちからパワーをもらい、自分の仕事につなげることが出来ます。

大変な部分もありますが、それを補って余りあるメリットがあるのです。

そして最も大きなメリットだと思つているのが、役員同士のつながりです。ほんとの方が忙しい中、時間をつくつて子どものためにと頑張ってくれる人たちですから、良い人ばかりです。そうした方と行事が終わった後にお酒を飲みながら、色々な話をすることがありますが、本当に楽しい時間

夜の会議に参加する時は、主人や両親に何度も頼りました。学校での役員会では先生方からより良い学校にするべく沢山のお話を伺いました。そして地域の集まりでは「地域あったかサポーター」の皆さんをはじめとする沢山の方々が我が子の安全を見守ってくださっている事を知りました。

当たり前のように学校に通わせている日常のひとつひとつが沢山の方々の協力、サポートの上に成り立っているのだと、なぜ今まで気付けなかったのでしょうか。身近な方々に感謝の気持ちでいっぱいの一年となりました。

そして、感謝の気持ちと同時に「安心感」も得る事ができました。PTA活動に取り組む前までは学校に対してや、子どもに対して、家族や地域や私と子ども達をとりまく環境から親としてしっかりしなきゃ、私が守らなきゃと壁を作っていたところがあつたような気がします。

ですが、この一年を通して一人で子どもを育てているんじゃないと気付いてからは、悩んだら相談すればいい。困ったら助けてもらえばいい。私達をとりまくこの環境は、問題が起きてからクレームを言う場ではなく、問題が起きる前に相談できる場であり、またそんな環境を維持するために、沢山の方々が

が過ごせます。子どものこと、学校のこと、仕事のこと、自分が子どもだったころのこと、今の社会のこと。とりとめのない話題から重い話題まで、様々な話を花を咲かせます。こうした関係は、PTAなどの役員にならないと中々構築できません。特に男性は、仕事関係でしか知り合いがつかれないため、定年退職後は誰も友達がおらず、趣味もなく、時間を持て余し、どこにでも奥さんに付いていく「濡れ落ち葉」などと言われることがあります。

でも、PTA役員をやれば大丈夫。定年後に酒を飲むことができる友達などはすぐにできます。これをご覧の方もぜひ来年は役員になってみてはいかがでしょうか？ 充実した私生活が保障されますよ。

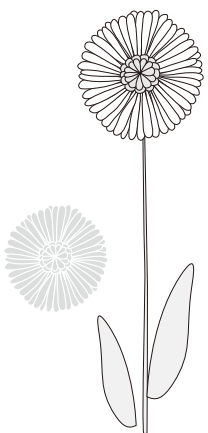
余談ですが、以前にPTA会長をやっていた際、自分の名前で自分宛に文書が届きました。その文書の内容は「PTA会費未納のお知らせ」。銀行の口座残高不足で引き落としができなかったとのことでした。すぐにお金を持って学校へ行き、平謝りしたの言うまでもありません。PTA会長といつてもこんなものです。特殊技能がいるわけでもありません。ぜひ多くの方々に経験してもらえたいことを期待します。

が携わってサポートしてくれている。だからもつと肩の力を抜いて私自身ができる事に目を向けたらいいんだよ。そして、もし周りから求められたらできる範囲でサポートすればいい。

子育てを全部自分一人で背負わなくていいんだという安心感を得る事ができたのです。

PTA役員になっていなかったら、知らずに過ごした事も多かったでしょう。学校に顔を出す回数が増えた事で必然的に娘と学校の話をする機会も増え、娘もまた私のPTA活動がきっかけで先生と話す機会も増えたように思います。

PTA活動に使った時間があつたからこそ、親子が向き合う時間に意識を向けられた事は間違いありません。貴重な体験をさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。





## ともに集い 成長できた経験

大垣市立中川小学校PTA

平成二十七年年度会長 箕浦利仁

子どもが二年生の時、知り合いから「来年度、一緒に執行部をやらなにか」との誘いを受けたのがPTAの始まりでした。子育て全般を妻任せであった私は、入学式や授業参観など小学校に行ったことはなく、活動内容も知らぬまま、軽い気持ちで執行部役員を引き受けました。

実際に始めてみると、PTA主体の活動、それに向けた会議や作業などがあり、日常生活にPTA活動が「無理矢理」入り込んできました。行事や、対外的な調整は昼の時間帯が多く、仕事も途中抜けしなければなりません。夜には内部の打ち合わせや事前準備で家を空けることが多くなりました。

ただ、一つ一つの行事を終えることに、「無理矢理」に生活に押し込んでいた活動が、ごくごく自然と生活の一部に入ってくるようになりました。また、普段の社会人生活では感謝をされることは多くはないですが、PTA活動では、多くの子どもたちが目を輝かせ、素直な満面の笑顔を見せてくれました。子どもたちの笑顔は不思議なものです。私

委員長、そして県PTA連合会では二年間、副会長(母親代表)として子どもの成長を見守らせていただきました。

毎日夕方四時から九時まで自宅で英会話教室をしておりますが、自営とはいえ一人で仕事しておりますので代わりは誰もいません。そのため、役員会が行ける時だけ参加すればいいだろうと、安易な気持ちで考えておりました。

しかし、多くの役員さんたちとお会いする中で、びっくりするぐらいパワフルな方にくさん出会いました。あるお母さんは県PTAの会議に来るのに、朝六時に家を出てくるとのこと。体に障がいのあるお子さんを、遠くから車で学校に送り届け、そのついでに会議に出席するんですと、明るくおっしゃいました。彼女が言う「ついでだから」という考え方にショックを受けました。同じ状況に置かれていても、考え方ひとつ変えるだけでその人自身も、きっと彼女のご家族もすごい力をつけていくのだろうな、と。

さて、その日から、私も彼女に近づけばと思いい、次から次にやってくる母親としてやらねばいけない業務をこなしてきました。まるでバツイングセンターで、どんな飛んでくるボールをひっきりなしに打ち返すように……。ホームランもありました

を含め、最初は仕方なく引き受けた他の役員の方も、次々と新しいアイデアを出すようになりました。PTA活動の原動力は子どもたちの成長する姿であることを改めて認識しました。

仕事とPTAの両立において家族の支えは大きな力になりました。家を空けることが増えることで、子どもとの時間が少なくなることに理解をし、また、持ち帰ってきたPTA作業を手伝ってくれるなど支えてくれました。

また、職場の方は、PTA役員を経験された方もいて、仕事の途中抜けにも理解をいただき私のスケジュールに合わせてくれるなど、本当に助けられました。

それにも増して、活動を進める力となったのは、一緒に活動する役員同士の雰囲気良かったことです。役員全員が、どうせやるなら楽しまなきゃ、という姿勢がありました。

それぞれが、仕事や家庭を優先させながらPTA活動を進めることで、お互いが助け合える体制になり、活動に対する前向きな意見を出し合うことができたように思います。私自身、仕事に向かう足より、PTAに向かう足の方が軽かったように思います。

このように、今の私にはPTA活動が日常の一部となりました。

が空振りもすれば。同時に二つ三つのボールも飛んでいきます。未熟な母は三つのボールを同時に打ち返すことはできませんので、いつも瞬時にどのボールが大切なのか見極めなければなりませんでした。

ある日、そんな私をみて友人が言いました。「心も体も健康で幸せだから、PTAのお仕事をこなせるんだよね」と。するとそれを隣で聞いていた長男が「じゃあ、ボランテアの仕事をすすんでやったら、心と体が元気になって幸せになれるってことだよねえ?」という微笑ましい発言がありました。

しかし、それから長男が色々な会の役を引き受けてきましたが、義理の父が危篤の大変な時期に遠くで行われる行事の参加を彼は引き受け、葬儀の翌日に参加することがありました。主人は葬儀の後かたづけ、私はどうしても外せない仕事で誰も迎えに行けずに長男を一人現地に置き去りにしてしまいました。どこかのやさしいお母さんから電話が入り、迎えに行けないことを伝えると自宅まで送ってくれました。このように多くの方々にご迷惑をかけ、助けていただきなんとか自分の仕事、役員の仕事、家事を頑張ることができました。

もう少しで役員も卒業という時期に、以前より年頃の多感な息子に対して一つ気に

PTA役員と聞くと、最初は自分自身でハードルを上げ、私にはできないと考える方も多いと思います。ですが、保護者の皆さんは、普段からPTA会員として、子ども達の豊かでたくましい「心」、「体」の成長を願って活動に参加協力しています。役員は、これまでより少し日常生活でPTAの事を考え、会員の協力を取りまとめるという違いがあるだけです。

役員をすることで、子ども達や学校との距離が近くなるとともに、新たな人との繋がりがもできるなど、得るものは数え切れません。

私自身、活動を通して子ども達をはじめ多くの人と交流できたことは、貴重な経験となりました。大人になった今、再び小学校で、ともに学び成長できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

## 「ご迷惑をかけ、助けていたただきなながら…」

岐阜県PTA連合会 本巣市立眞正中学校PTA 平成二十七年年度母親代表副会長 村瀬里佳

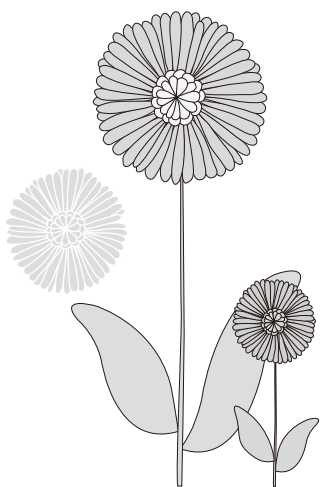
長男が小六の頃から中三までの四年間、学校では副会長、本巣連合市PTAでは母親になりました。

「母さん、しょっちゅう学校に行くことがあり、お友達や先生と会う機会が多いけど、どこにでも顔を出す母さんに対して、きつと嫌な思いしてるよねえ?」

すると返ってきた言葉は想像していたものとは異なっていました。

「僕は全くだやじゃないよ、大変だなあと思っているよ。僕の友達みんなによく言われるんだ。いいなあ、おまえの母さん、うらやましいなああってね。男子にも女子にもね。」

中学校の息子の友人たちが、そのように言ってくれていたことが、私にとっては最高のご褒美の言葉です。ちょっとだけ自信がつかれました。きつと今の私ならボールが三つ飛んできても、三つとも軽く打ち返せますね。





# 「話そう! 語ろう! わが家の約束」運動

～県内各家庭で取り組みが広がっています!～

「約束」をきっかけに親子が毎日会話をしたり、保護者が子どもの頑張りを認めたり、応援したりする家庭が増えてきています。「子どもの普段の様子を見守る」、「子どもと意識して話をする」など「親子のコミュニケーション」が子どもの心を満たし、確かな心の居場所を作っていきます。

**取組みの例**

<昨年度の実践から>  
実践カードを使って各家庭で取り組みます。  
(実践カードは県ホームページに掲載してあります。)

**①親子で話し合って約束決定!**

〈約束の例〉

- ・「次の日の準備をしてから寝る」
- ・「遊ぶ前に宿題を終わらせる」
- ・「日曜日の昼食を作る」
- ・「スマートフォンは夜9時まで」
- ・「家族全員で〇〇しよう」
- ・「お父さんは〇〇するよ」

**②毎日の振り返り。○かな?◎かな? 子どもの頑張りに拍手!**

**③子どもの思いと親の思いを交流。 次の約束は何にする?**



「家庭教育は全ての教育の出発点」と聞けれど、いったい何を教育すればいいの?



平成26年12月22日に岐阜県家庭教育支援条例が公布・施行されました。その条例では「家庭教育」を、保護者がその子どもに対して上の9つの項目を教え、育むことと定めています。

**子どもの声**

- ・たくさんほめてもらえてうれしかった。
- ・家族でたくさん話をして仲が深まったと思う。
- ・親が普段よりたくさん自分を見てくれた。

**保護者の声**

- ・一緒に取り組む中で子どもの頑張りを見ていたら私の方がエネルギーをもらいました。
- ・子どもを観察すると、たくさんほめることが見つかりました。

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中! ぜひご覧ください!!

- 掲載内容—
- ・平成23～27年度家庭教育学級の実践
  - ・家庭教育学級運営マニュアル「みんなで子育て」
  - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てII(乳幼児期編)」
  - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てIII(小・中学校編)」
  - ・家庭教育プログラム「みんなで子育てIV(次世代編)」

岐阜県 家庭教育学級 **検索**

県では「話そう!語ろう!わが家の約束」運動を推進しています。この運動は、約束づくりや実践の取組みをきっかけに、子どもと保護者が一緒に考え、お互いの気持ちを理解し合ったり、よさを認め合ったりして親子の絆を深められることを願って行います。「じっくり聞く」「共感する」「声をかける」「ほめる」「一緒に活動する」ことで、県内すべての家庭における会話が増え、子どもたちが安心感をもって生活できるように願っています。昨年から始まったこの運動に取り組む家庭がどんどん増えています。この運動に参加してよかったという声もたくさん届いています。どんな約束にしようかと迷ったときは、上記の9つの項目を参考にしてみてください。取組みを進める中で、家庭教育で身につけたい力が知らず知らずのうちに身につくことが期待できます。「話そう!語ろう!わが家の約束」運動の取組み方法については次のページをご覧ください。

お気軽にご相談ください!  
各教育事務所には、家庭教育推進専門職がいます。家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

飛騨教育事務所	0577-3311
東濃教育事務所	0574-2311
可茂教育事務所	0574-2311
美濃教育事務所	0574-2311
西濃教育事務所	0574-2311
岐阜教育事務所	058-2783

(直通)

家庭教育応援団!





所在地 岐阜県岐阜市則武1816番地1

## 岐阜希望が丘特別支援学校で学ぶ児童生徒たち

岐阜希望が丘特別支援学校は、肢体不自由者を対象とする特別支援学校です。

昭和三十二年に現在の下呂市に創設された岐阜県立整肢学園内に下呂小学校及び下呂中学校の分教室として開設されたのを始めとして、今年度満三十八年目を迎えます。

昨年度の八月には新校舎の大半が完成し竣工式が行われました。今年度から高等部も開設され、現



## 様々な教育目標実現は保護者との連携が鍵

毎朝担当の職員は、保護者と一緒に児童生徒の体温を測り、その日の健康状態の確認をすることから一日が始まります。また新学期は、食事の介助の仕方や補装具等の装着の仕方に至るまで、保護者から学ぶことからスタートします。

安全で安心な環境が保障されて初めて教育活動を行うことができます。児童生徒の発達の支援には、保護者との連携が大切な鍵となっています。

### PTA組織

PTA執行部の他に、四つの委員会（会報委員会、ベルマーク委員会、ボランティア委員会、進路委員会）で組織しています。保護者全員がいずれかの



▲交流会

在は小学部四十三名、中学部二十一名、高等部八名の計七十二名の児童生徒が学んでいます。また、隣接する希望が丘こども医療福祉センター（以下センター）から通学したり、リハビリに通う児童生徒もおり、常に連携をしています。

## 一人ひとりに応じた教育課程と特色ある授業や行事

全校の約八十五パーセントが「自立活動」を中心とした教育課程や、領域教科を合わせた指導（日常生活の指導・生活単元学習・作業学習）で学ぶ児童生徒です。中でも特徴的なのが一人ひとりの身体に「からだ」「かだい」の学習を行っていることです。一方、通常の小・中学校から、手術に伴いセンターへ入院する児童生徒もおり、小学校や中学校に準じた教育課程で学ぶ児童生徒がいます。

高等部では、卒業後の進路を見据え、自立活動を中心とする教育課程や領域・教科を合わせた指導を行う教育課程があり、就労継続支援や生活介護といった進路の実現に向けス

委員会に所属し、PTA活動を運営しています。

### PTA活動の紹介

#### ①「交流会」

ボランティア委員会が中心となり、昨年度まで「ボランティア養成講座」を運営していました。障がいのある子ども達の良き理解者を増やしたいという願いで、車いすの操作や車いす乗車体験障がいのある子の家族との交流会で基本的な知識をもってもらい、最後に子どもたちと一緒に遊び、理解を深めていただく内容で行っていました。

しかし、年々講座に申し込みする方が減少し、ボランティア活動希望者や子ども達に対する理解者を増やすことに課題を感じていました。

そこで、今年度は、「学校のこと、子



▲PTAおたのしみ会

ムズな移行支援を行います。学校行事としては、六月にメモリアルセンターで行うスポーツフェスタ（運動会）や十一月に行うなかよしフェスタ（学習発表会）があり、全校で取り組んでいます。

### ○小学部

小学部は、「生活リズムを整え、健康な生活を送る力を育てる」「自分の思いを自分なりの表現で、周りの人に伝える力を育てる」「自分の力を十分に発揮して、元気に活動する力を育てる」ことを目標としています。また、近隣の小学校とも長年にわたり交流



▲授業風景

ども達のことを知ってもらうことから始めよう」と考えました。まずは身近な地域に理解者を増やしていくために、隣接する岐阜市立早田小学校のPTAに呼び掛けました。活動名も柔らかい印象になるように「交流会」と変えて取り組むことにしました。

#### ②「PTAおたのしみ会」

「親子で楽しく過ごせるように」との願いで、執行部が中心となり、毎年、冬休み前の放課後におたのしみ会を企画・運営しています。一ヶ月ほど前から、低学年の保護者全員で発表内容を相談して決めます。本の読み聞かせや楽しい寸劇など楽しみながら一生懸命練習し、本番にはその成果を披露しています。毎年趣向を凝らした素敵な発表ばかりで、楽しい時間を過ごすことができます。会の終わりには、執行部が準備したプレゼントを子ども達一人ひとりに校長先生のサンタさんから配っていただきます。子ども達の笑顔もいっぱい、クリスマスのお楽しみも味わえる楽しい会です。

#### ③「施設見学」

子ども達の将来の生活や進路を考えるきっかけとして、また、進路先の情報提供も考えて、施設見学を実施しています。今年度は、新しく立ち上げた「進路委員会」で企画・運営します。主に生活介護事業所に見学して

を続けており、交流会では互いに思いやる気持ちも育つてきています。

### ○中学部

中学部では、学年の違う生徒でグループを作り作業学習や自立活動に取り組んでいます。その中で「何事にも目標をもって取り組み、粘り強くやり遂げる力を育てる」「授業や行事を通して、学ぶ喜びを知り、考える力を育てる」「友達との関係づくりや、集団生活を通して社会性を育てる」ことを目標としています。

伊自良中学校との交流も三十年以上前から継続して行われています。

### ○高等部

高等部では、「安全・安心な教育環境のもと、心身共に健やかで豊かな人間性を育てる」「主体的に学び、確かな自己表現力とコミュニケーション能力を育てる」「キャリア教育を通して自己決定する力を身に付け、自立社会参加を目指す」ことを目標に、校内作業実習や校外での実習にも取り組みながら、一人ひとりに応じた進路の実現を目指します。

いますが、子ども達の実態により即した見学先も新しく開拓していきたいと考えています。

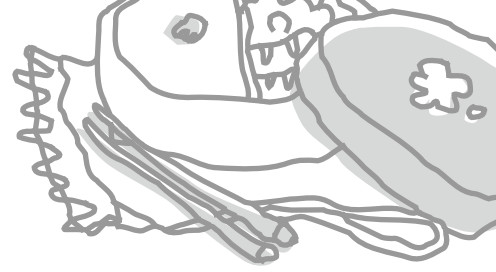
### 保護者の思い

昨年度より長年の念願だった高等部が開設されました。そのような記念すべき年に我が子が高等部に入学することができ、また児童生徒数も年々増え、賑やかで明るい希望が丘で元気に学べることを大変ありがたく思っています。

当校は医療的ケアを必要とする生徒の割合が多く、看護講師さんが毎日五名体制で対応していただけて、親としても安心して学校に送り出すことができます。ただし、この安心できる現状を当たり前だと思わないように心がけています。かつては、医療的ケアの必要な子どもには親が校内で待機する等、保護者の負担が大変な時期もありました。今、子ども達が元気に登校できることは、先生方一人ひとりに合わせた支援のおかげでもあり、卒業された多くの先輩方のおかげでもあることを忘れてはいけないと思います。

高等部では、卒業後の進路を見据え、社会で生きる力を付けられるよう日々の生活を大切に送ってまいります。





# お弁当の日

関市立金竜小学校PTA

## 「歯を育てるお弁当の日」として

金竜小学校は、心と体をバランスよく育むことをテーマに、「おもいやり活動SAVE」と「歯と口の健康づくり」「図書館教育」に力を入れています。PTAとしても、子どもたちの健やかな成長のために、それらの活動をしっかり支えていこうと様々な取組を学校と連携しながら進めています。お弁当の日の取組は、平成二十五年度からスタートし、「歯と口の健康づくり」の中で実践を進めています。そのため、取組みの名称を「歯を育てるお弁当の日」とし、次の二点を目標としました。

- ・歯を育てるためによい食事について理解し、歯の健康についての意識を高める。
- ・お弁当を準備するを通して、食育への関心を高めるとともに食への感謝の心をもてるようになる。

また、「歯を育てるお弁当の日」のめざす具体的な姿を次のように示し、児童一人ひとりが主体的に関わるようにできるように考えました。

- ◎「歯を育てるためによいおかず」をお弁当の中に一品以上もつてこよう。(全員)
- レベル1：自分でお弁当の中身をつめよう。
- レベル2：お家の人を手伝って、お弁当の中身を準備しよう。
- レベル3：自分の力で、一品以上の中身を準備しよう。
- レベル4：自分の力で、半分以上の中身を準備しよう。
- レベル5：自分の力で、全部の中身を準備しよう。

ここでは、平成二十五年度から三年間の取組を紹介いたします。

「歯を育てるお弁当の日」の期日は、十一月に行う児童会行事「金竜こどもまつり」に合わせて行い、児童にとつて楽しい一日となるように願っています。

PTAでは、保健体育委員会が「歯を育てる親子クッキング」を実施したり、「歯を育てるレシピ」を配布したりしてきました。また、母親委員会はフリー参観に「お弁当の日講演会」歯

からアプローチするお弁当づくり」を実施しました。

### 「歯を育てる親子クッキング」

PTA保健体育委員会は、六月に「歯を育てる親子クッキング」を実施しています。これは、親子で料理をつくり、食材に対する見方や考え方を高める食育の取組みです。栄養教諭を講師に招き、「歯に良い食材は何か」「おいしく調理する方法」を親子で学び体験します。この内容は、「歯を育てるお弁当の日」を見通して、それに役立つものとなるように、子どもでもできるおかずの作り方を中心に行っています。平成二十六年度は、「歯に良いおかずを入れたおにぎりづくり」、平成二十七年年度は「歯に良いおかずを挟んだおにぎりづくり」を実施しました。子どもでも簡単にできる内容に年々参加者が増えてきています。また、栄養教諭の先生にお願いして「歯を育てるレシピ」を配布し、「歯を育てるお弁当の日」に役立ててもらうことも行いました。

### 「お弁当の日講演会」

「歯からアプローチするお弁当づくり」

「歯を育てるお弁当の日」を始めた平成二十五年年度とその翌年の二年間、P



TAの家庭教育学級の講演会に、岐阜県で「お弁当の日」の取組を推進してみえる先生を講師に招いてお話を聞きました。取組みの進め方やこれまで実施したお弁当の日の実践についていろいろとお話を伺うことができました。

### 「歯を育てるお弁当の日」を実施して

この取組みを実施して、多くの子どもたちが自分の食べるものに興味をもって関わる事ができました。保護者からも多くの良かったという声をいただきました。



▲お弁当の日講演会

- ・歯によいものを使用しました。栄養のあるものも使いました。今まで、ピーマンは食べられなかったけれど、食べられるようになりました。(二年児童)
- ・根菜などを炒めるときは、歯ごたえを残せるように、あまり火を通しすぎないようにしたり、いんげん豆もゆですぎたりしないように気を付けました。おにぎりは、力を入れすぎてお米がつぶれないようにやさしくにぎるようにしました。(五年児童)
- ・お弁当は、いつも本人の好きな物を中心に入れていました。今回は、歯を育てるということで、家ではあまり食べないものを入れてみました。これからも歯を育てることを考えながら、作るうと思いました。いつも一人でやりますが、子どもと一緒にしてとても楽しかったです。(二年保護者)
- ・お弁当づくりをして、子どもの食への感謝の気持ちが分かりました。そして作る楽しさと大変さが分かったみたいで、また作りたいと思う心ができてよかったです。よい時間を与えてもらいました。(六年保護者)

しかし、いくつかの課題も明らかになってきました。

- ・低学年の子どもが自分で作るようになる
- と、親が作るよりも手間がかかり、平日の朝、時間を確保するのが本当に大変である。

・この取組の意味が十分周知されないまま進んでいる点が問題である。

平成二十八年年度の取組みにおいては、取組み時期を時間的にゆとりのある夏休みに実施することや、子どもたちが家族とともに料理を作る日を各家庭で実践していただくようにすること等、改善を図りながらよりよい取組みにしていきたいと考えています。

### 「歯を育てるお弁当の日」



▶PTA親子クッキング





# 保健室ノート

●北方町立北方西小学校  
 養護助教諭  
 足立 千春

## 朝食を食べて健康に過ごそう

北方西小学校は、北方町の西部に位置し、古くから円鏡寺の門前町として栄えてきた校区にあります。学校では「①きれいな学校」「②のしい学校」「③ここに笑顔で」「④っかり学習」を合言葉に、子どもたちが元気に学校生活を送っています。休み時間には、元気いっぱい体を動かしています。運動場にはドッジボールや鬼ごっこ、鉄棒などをしている子どもたちの明るい声が響き渡ります。そんな子どもたちの姿から、私たち教職員は、毎日元気をもらっています。

新年度が始まって、一カ月、二カ月経つと子どもたちも新しい環境に慣れとにしました。

### ①「朝食を食べる」との継続的な働きかけ

来室した子の体温を測りながら、就寝と起床時刻、排便、朝食は何を食べたか聞きました。朝食を食べていない子には、「朝食は一日のエネルギーだから、食べないと体が動かないよ」「毎日朝食を食べたら、病気に負けない丈夫な体になるよ」と話しました。その後、その子に継続して朝食のことを聞くようにしました。何度も声をかけていくうちに、「今日は食べたよ」「パンを食べたよ」と答えてくれるようになりました。日常的に声をかけることで、朝食を食べるという意識も高まってきました。

### ②朝食の大切さの授業

二学期には、食育週間に合わせて「パクパク週間」を実施し、栄養教諭

てきます。四月の緊張した様子とは違った一面も見られます。そんな中、緊張感がなくなったことで、けがや体調不良を訴えて来室する子どもも多くなります。特に、頭痛や腹痛、倦怠感を訴えて来室する子どもが増えています。体調不良を訴えて来室する子どもの中には、朝食を食べずに登校してくる子どもが多いことが気になります。理由を聞くと「寝るのが遅く、朝寝坊して朝食を食べる時間がなかった」「朝は食欲がない」「朝食にお菓子を食べてきたよ」など生活習慣が整っていないことに起因している理由が多くあげられました。なかには、「朝食がなかった」と朝食を食べずに登校せざるを得ない子どももいました。

全校で生活習慣チェックを行ったところ、毎日朝食を食べるという児童と連携して朝食の大切さについての授業を行いました。授業後には「勉強に集中するために朝食をしっかり食べたよ」「毎日朝食を食べて、元気に過ごしたい」といった感想を聞くことができました。

### ③保護者への啓発

保護者には学校保健会で生活習慣アンケートの結果と、朝食の摂取状況を伝え、資料をもとに一緒に話し合いました。また、運動会などの行事前や学期始めには「ほけんだより」を活用して、朝食の大切さを啓発してきました。

生活習慣を整えることは、子どもだけでは難しいことのひとつです。学校でも家庭と連携して、子どもたちが健康に過ごせるように一緒に考えていきたいと思えます。子どものころに身に付いた生活習慣は将来の健康につながり

は、八十八・六％。一年生においては、七十二・二％でした。岐阜県の小学生の朝食摂取率九十六・八％より低く、さらに、体調不良で来室した児童の朝食摂取率は六十二％でした。『早寝、早起き、朝ごはん』は健康な生活には必要不可欠です。しかし、朝食習慣が身に付いていない子どもが多くいることが明らかになってきました。

そこで次の三点の働きかけをします。生涯にわたって健康な生活を送るために、早い時期からよりよい生活習慣を身に付けさせたいと思います。そのためには北方西小学校の子どもすべてが自分の生活習慣や体に関心をもつことができるようこれからも取り組んでいきます。





# 先生と言葉

郡上市立八幡小学校 教諭

小田 百合思

この二十五年間、わたしの周りには常に「先生」がいてくれました。そして育てていただきました。大人になってもそれは変わらず、今はこの八幡小学校の先生方に育てていただいています。関わってくださった先生方に感謝は尽きません。先生方と接する中で生き方に学びその言葉に感銘を受けてきました。

## 憧れを抱いた中学時代の恩師

わたしは、静岡県の磐田市出身です。教員を目指すようになったきっかけは、中学時代にバレーボール部でお世話になった顧問の先生です。

その先生は、クールでかっこいい女性の方でした。しかし、部活になると普段の姿からは想像できないくらい厳しく指導される方でした。練習では毎日怒られ、悔しくて悔しくて練習に打ち込みました。見返してやりたい、そんな悔しい気持ちがあった時の原動力だったのです。

そんな先生でも、試合のときはわたしたちと一緒に悔しがったり、泣いて喜んでくださいました。一緒に本気になってくれたことがうれしかったのを覚えています。鬼のように厳しい先生でしたが、わたしはその先生のが好きでした。

その先生からいただいた言葉の中で、印象に残っている言葉があります。それは「お前がやらなきゃ誰がやる」です。特別な試合ではなく、ただの練習の中で怒られたときに言われた言葉ですが、この言葉だけずっと心に残っています。言われたときは、何も考えませんでした。あとから先生が厳しくされているのはできると信じていてくれたからなのだと気が付きました。今この言葉を思い出すと、部活に本気になっていた自分を思い出すと同時に、怒られて悔しかった気持ち、信じて

もらってうれしかった気持ちが懐かしくよみがえってきます。

子どもに本気で向き合える先生がとてまかっこよくて、うらやましくて、先生になろうと決意しました。

## 目指す方向を示してくれた教育実習と八幡小の先生方

静岡県ではなく、岐阜県の教員になろうと決めたまっかけは、教育実習でお世話になった先生です。大学三年生のときに、教育実習で岐阜市の小学校と中学校に、一ヶ月間ずつお世話になりました。初めて「先生」と呼ばれる生活にうれしさを感じつつも、慣れないことはかりて毎日不安でした。担当の先生は職員室の入り方から子どもの褒め方、叱り方まで、とても丁寧に教えてくださいました。

担当の先生には、学んだことや感じたことなどを書いた実習ノートを毎日提出します。実習最終日のノートに書いてあった言葉を読んで、わたしは岐阜県で働きたいと思いました。それは「小田先生の姿からわたしも気付けたことがあり、勉強になりました」という言葉です。実習生のわたしでも、先生のお役に立てたことがうれしかったと同時に、いくつになっても勉強する姿勢を持ち続け、謙虚さを忘れない先生の人間性に憧れました。

謙虚さといえば、以前一緒に勤めていた、ある先生の口ぐせが「謙虚さが一番」でした。その先生はまさに言葉通り、謙虚さの塊でした。その先生の生き方や考え方に感銘を受け、わたしの目指す教師像ができました。

言葉によって将来が決まったり、性格や考え方を換えようと思ったりすることが多く、言葉のもつ影響力の大きさにびっくりします。だからこそ、自分が発する言葉にも気を付けなければなりません。

教員として働いている今でも、わたしのまわりには「先生」がたくさんいらっしゃいます。あんなりたい、こうなりたい、日々目指しながら生活しています。教員として働きつつ、周りの先生からたくさん学ぶことを学んでいます。先生から学ぶということは、いくつになっても変わらないと思います。

今わたしは、子どもたちの素敵な姿を一つでも多く見付け、その子が輝き、心に響く言葉をかけられるよう頑張っています。



## ONE FOR ALL, ALL FOR ONE

私は、平成二十七年年度に下呂市立尾崎小学校のPTA会長を務めさせていただき、最後の仕事にこの「わが子のあゆみ 子育て半生記」の執筆依頼を受けることになりました。執筆にあたり、どのようなテーマにするかを検討するため、昨年の出来事を振り返るとやはり、私の中で印象が一番深かったのはラグビーのことだったのでこのテーマにしました。昨年、五郎丸選手がゴールキック前に行うルーティーンの際五郎丸選手がテレビで何度も放送され、子ども達の間でそのポーズが大流行したこともあり、ラグビー日本代表は、広い世代にわたり有名になりました。それ以外にもラグビー日本代表は、去る平成二十七年九月十九日、ワールドカップ二〇一五のグループB開幕戦で、過去にワールドカップで二回優勝し、世界ランキング三位の南アフリカ代表に初対戦ながらラストプレーでの逆転により、三十四対三十二で勝利しました。

この二十四年ぶりのワールドカップでの勝利は、国内外を問わず大々的に報じられ、特に海外のメディアからは「ワールドカップ史上最も衝撃的な結果」、「スポーツ史上最大の番狂わせ」などと報じられました。その後、第二戦でスコットランド代表に敗れましたが、第三戦ではサモア代表に勝利

ひとたび試合が始まるとタックルで倒されてしまったバックスの代わりにフォワードがバックスラインへ参加したり、フォワードが間に合わず人数が少ない時はバックスがその代わりにラックやモールへの参加をすることがありました。それは、まさにその



し、第四戦でもアメリカ代表に勝利しました。その時は、もしかして初の一次リーグ突破かと期待しましたが、結果は勝ち点で南アフリカとスコットランドを下回り残念ながら、一次リーグ敗退となりました。

しかし、ワールドカップにおいて三勝したチームが一次リーグ敗退となるのは史上初で国内外のメディアから「最強の敗者」と讃えられ日本中が感動し、熱狂したことは皆様の記憶にも新しいことだと思います。

さて、私は、数少ないラグビー経験者ですが、その間では誰もが知っている？有名な言葉を皆様に紹介させていただきます。その言葉は、「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」です。諸説ありますが語源は三銃士の中にあり、その言葉を直訳すると「ひとりとはみんなのために、みんなはひとりのため」です。しかし、本当の意味は「ひとりとはみんなのために、みんなはひとつのこのために」と言われています。

ラグビーは一般的な団体競技のサッカー、アメリカンフットボールの一チーム十一人と比べても一チームが十五人と最も多く、フォワードやバックスの各ポジションで役割が全く異なります。しかし、

言葉どおり「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」の精神でチーム全員が一丸となり勝利のために協力していたのではないかと思います。

PTA活動もラグビーと似ていて、普段は全く立場の違う、教職員、保護者又は地域の皆様が、子ども達のために協力することで学校、家庭、地域のより良い環境づくりを行っています。私がPTA会長の時も、役員をはじめとする様々な関係者の皆様にご協力をいただきました。これも「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」の精神ではないでしょうか。これからは、その精神を大事にしてPTA活動への協力を行いますので、皆様もラグビー日本代表のような「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」の精神でPTA活動へのご協力をお願いします。

### pleasure イラスト&クイズ

夢に向かって走り出そう!



PN・しおりん(不破郡)

東京喰種

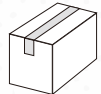


金木 研

加藤 藍(揖斐郡)

#### QUESTION-1

誰でも動かせるのに、どんな力持ちでも持ちあげられないものって何だ?



出題・中島満月(輪之内町)

《答えは41ページ》



# PTAふれあいニュース

vol.1

## 家族の絆の日

富加町立富加小学校PTA

本校では毎月十一日を「絆の日」とし、命の大切さや人と人とのつながりの大切さについて考えています。特に夏休みは「家族の絆の日」として実践しており、その内容は家族のコミュニケーションを図るというものです。

昨年は戦後七十年という節目の年であったため、多くの家族がテレビ・新聞等で戦争体験者の話を聞いたり、戦争に関するドラマを見て、競争について親子で話し合ったりしたという内容が多かったです。保護者からは戦争の悲惨さや怖さについて、子ども達に伝えることが大事であるという感想が聞かれました。

また、一・二年生は「うちご飯の実践」を行い、親子のコミュニケーションを図ることにしています。「家庭実践」という形で行うことで保護者の方の協力も多く、各家庭で作成したレポートは夏休みの宝物展に掲示しました。多くの保護者の目に留まり、

食育に対する意識を高めることになりました。



## 親子で楽しむ「親子ふれあい活動」

七宗町立上麻生小学校PTA

本校PTAでは、各学年のPTA学級委員が中心となって年一回実施する「親子ふれあい活動」が、伝統となつていきます。

昨年度、五年生は「親子キンボール大会」を行いました。1m以上もある大きなボールを、落とさないように受け取るゲームですが、親子チームも子どもチームも大きな声を出し合いながら、楽しく活動できました。

昨年度、一年生では「親子で思い出の写真立てづくり」を行いました。色付けした紙粘土でフルーツやケー

キなどのスイーツを作り、それを写真立てやメッセージボードに貼り付けて、スイーツデコレーションをしました。親子で話し合いながら、紙粘土に色を付けたり、型抜きしたり、場所を考えて貼り付けたりしました。とてもかわいらしいお気に入りの写真立てに仕上がりました。親子とも大満足でした。その写真立てには、親子の楽しい思い出の写真が飾ってあります。今年も楽しい親子ふれあい活動を計画中です。



▲五年生・親子キンボール大会



▲一年生・親子で思い出の写真立てづくり

## 親子揃って取り組む奉仕作業

八百津町立東部中学校PTA

東部中学校では、毎年夏休み後半に「親子奉仕作業」を行っています。昨年度は八月二十二日(土)に、三十軒のPTA会員の全ての保護者と全校生徒、職員が参加して行いました。両親揃って参加していただけた家庭も多く、保護者は総勢四十四名の方に協力していただきました。

男性は、学校の敷地の草刈りや溝の掃除を、女性は、校舎内の窓拭きや廊下のワックス掛けを、生徒は花壇やグラウンドの草取りを行いました。この親子奉仕活動を通して、子ども同士、親同士、または子どもと親の会話がぐいに弾みました。休憩



時間には、飲み物を飲みながら、お互いに、「お疲れ様。」「久しぶりに親子で汗を流すことができた。」「九月の体育祭に誰に来ていただいても大丈夫。」「など、爽やかな声が飛び交いました。

このように、子どもたちが、保護者と一緒に活動する中で、より一層子どもたちに学校や地域を愛する心が育まれることを願い、今後もこの活動を続けていきたいと考えています。

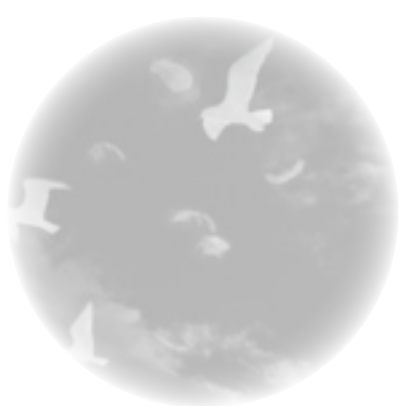
## 家庭・地域・学校による協働

東白川村立東白川中学校PTA

本村連合PTAが主催し、年三回『小中合同資源回収』を実施しています。会員数等によっては、経費的な問題や人的な環境が壁となることも少なくありませんが、保護者・地域・関係機関の温かい協力のもとに成果をあげています。

当日、生徒は保護者とともに早朝より居住地区で回収をし、集積場所へ運びます。その後、集積場所では回収車を積み込みます。すべての地区が終わるまで全員で活動します。

こうして生徒を中心に、家庭・地域・学校がともに汗を流して活動することによって、資源回収は、生徒や会員にとって単なる資金集めではなく、その活動を通じて地域の絆を強め、郷土愛を育む場となっています。同時に生徒にとっては、本校が大切にしている環境教育を体感的に学習し、物や人との関わりを学ぶ教育活動の一つになっています。







犬たちをおくる日  
今西乃子 著／浜田男 写真  
金の星社

瑞浪市立稲津小学校PTA

母親副委員長 成瀬直子



この本は、息子と一緒に読書感想文を書くのに、良い本はないかと木屋さんで探しているときに見つけた一冊です。

その当時、家でゴールデンレトリバーを飼っていましたが、十三年間生きた愛犬との悲しい別れを家族で目の当たりにし、息子は初

めて命というものに向き合った時期でした。自分たちと重なる部分を感じ、親子でとても感情移入して読んだ本です。

「犬たちをおくる日」は、愛媛県動物愛護センターの取材をもとに書かれている実話です。

犬たちの命を救うために、日々奮闘する職員の日常を追いながら、命とは何か、その命の重さを考えた本です。

動物愛護センターがあるということを知っていても、それを身近に感じることもないし、漠然と動物を預かってくれる所ということぐらいいいか、私たちはあまり知らないのではないのでしょうか。私たちの身勝手な理由で次々と置き去りにしていく現実があることや一部では譲渡会にでもらわれていく命があるけれど、大半が殺処分されていく命がある現実を私たちは知る必要があると感じました。

誰もがかわいいからと一時の感情だけで飼うだけでなく、命を預かるということの重みを考えていかなければいけないと思いました。

最近、テレビで放し飼いにしている人を襲ってしまったたり、犬の鳴き声がうるさくて傷つける行為を行ったりと、悲しい事件もたくさん目にします。でも、犬たちは

何も悪くなくて、私たちが飼う上で、しつけやマナーを教えないだけでいいことを、この本を読んで思い知らされました。犬たちは飼い主を選ぶことはできません。家族の一員として、一生お世話することができないのなら、飼わないという選択をすることも愛情の一つということも学ばせてもらいました。

殺処分の際、ボタン一つで尊い命を失わせてしまうことに対する動物愛護センターの職員の方々の想い、首輪が物語る犬たちの無念の思いを受け止めていこうとする職員の方々の仕事に対する意識の高さに感動しました。この本を通じて、これから社会全体が少しでも尊い命をこれ以上失わせることがないように、私たちができることは何かについて、命の大切さをもっと重く捉えながら考えていかないといけないと思います。現実を知ることができ、本当に良い本に出会えました。

息子は、愛犬の最後を看取り、命の尊さを目の当たりにしました。この本を読んで親子で話し合った後、涙を流しながら読書感想文を書いていた息子の姿を見て、何かを感じ取ってくれたのだと思いました。今でも息子の机の上には、愛犬と一緒に

つたのだ。最も先端的なおしゃれをしているのでいつも注目しているアメリカン・ヴォーグの編集者たちも、全員が去年見たことのある服を身につけていた。』のだそうだ。ここを読んだ時、世界のファッション界を動かして行く頂点に立つ人々がそういう状態であるならば、何も恐れることは無いなど、直感的な勇気をもたらしたような気がした。ファッションに限らず、「私」をしつかりと持っていれば、自分を取り巻く環境に流されることなく常に自然体で楽に生きられるというのには、本当だと思う。昔からよく言われてきた、自分は自分だという言葉だ。

現代の子ども達や若い人々は、当時の私の頃より格段に便利で窮

写っている写真がずっと飾ってあります。

おしゃれの階段

光野 桃 著  
新潮文庫

各務原市立那加中学校PTA書記 畠山聖乃



約二十年前、大学生だった私は何か面白そうな本はないかと、大学の行き帰り等に駅前や駅構内の大型書店によく立ち寄った。ジャンルを問わず、店内に並ぶ本の背表紙を眺め、心惹かれるタイトルの本を見つけては、パラパラとその中身をめくってみて、次にはこれを読もうと思える本を買って帰るのが好きだった。「おしゃれの階段」も多分そんな感じで偶然にタイトルに興味を持ち、立ち読みをした中身に惹かれて選んだ本であったと思う。

そんな訳で何か目的を持ってとか、書いてある内容に期待をして読み進めたという事ではなかったのだが、しかし結果的にこの本が屈な世界を生きている。情報も溢れるほどに膨大で、その中から何が正しくて何が間違っているのか、的確に取捨選択をしていかなければならない。ここでも「自分はどう考えるのか、何を心の中心に据えていくのか」が大切になってくる。

我が娘も中二になった。そろそろ周りからの評価も気になる年頃だろう。また中三、高校と進んで行く中で将来の夢や希望も出てくるだろう。更に、好きな男の子も出来るかもしれない。そんな時「おしゃれの階段」を薦めてみようと思っている。若い頃の私が大いに感銘を受けたように、娘の心にも何かが残る、長い人生を歩んでいく中でのヒントとなるものを得られるのなら嬉しいと思う。

私は、日頃暮らしていく中で本当に大切にしていきたいと思う事とか、自分の中のぶれない信念や核となるものを持つことの強さと気楽さ等々について考えるきっかけを与えてもらった。もう子どもではないけれど完全な大人ともいえない、比較的時間に余裕のある大学時代にこの本と出会えたことで、確実に一歩大人側に向かえたと言える。良い本に良いタイミングで出会えたと、感謝している。

の特集が生まれ、日本のブティックのウインドーも茶色一色に染まっていた。こちらの人々は、どんなふうに着こなしているのかしらー私はワクワクしながらミラノの空港に降り立ったものだ。しかし驚いたことに、十月のミラノで、チョコレート色を着ている人ほとんど出会わなかったのである。

街を行き交う人々はおもろく、世界中のファッション関係者が一堂に会するミラノ・コレクションの会場でも、その色の服を着ている人をほとんど目にする事はできなかった。『代わりに著者がミラノで見たものは、『明らかに去年買ったと思われるページジュのコートや、もつとずつと前に買ったような黒の服を着た人々ばかりだ



PN. マルフェルタ (関市)



PN. 小嶋 (関市)

QUESTION - 2

11から1をとったのに、12に増えたよ。なぜでしょうか?

11 12

出題・間野 春紀 (多治見市)  
〈答えは41ページ〉



初めて、  
という不安。

ここから始まる、  
という希望。



未来は、  
希望と不安で、  
できている。

明日をつよく。三井住友海上

## 親子で一緒に楽しみながら

恵那市立大井小学校PTA会長 田中 孝夫



私達夫婦と長女（中二）、次女（小五）、長男（小二）、次男（保育）の六人家族です。

①夜九時までに寝る  
②ゲーム、テレビは週末のみ（一時間を限度）  
③週末は家事を手伝う

九時までに寝ています。そのため翌日は自然と早起きできます。父親である私が家に居る時は問答無用で言い続けています。朝も気持ちよく早く起き、お腹が減って、朝食をしっかりと食べることが出来ます。

普段、我が家ではテレビは親子共にほぼ見ませんが、ゲームだけはやりたいたらしく、買って後悔したぐらい子ども達が夢中になってしまいました。親としてはもう処分したいぐらいなのですが、かわいそうで、週末だけOKとしています。限度が大事、平日はきっぱりNOです。

夫婦共働きですので、週末ぐらいは：約束というより、お願いです。年齢に合わせて炊事、洗濯物をたたむ、キッチンの洗剤、お風呂掃除、草むしり等です。なかなか喜んではいませんが、一緒にやると会話も弾み、こちらも楽しく出来ます。

つい「早く寝なさい！」  
と言ってしまいますが、約束を守る過程も、親子で楽しみながらやっているところ

田中家  
の巻

60



## 話そう!語ろう! わが家の約束



わが家の約束事は、  
「できることは自分でする。」  
「始めたことは最後まで続ける。」  
「他人に迷惑をかけず、他人のためにすることをやる。」  
を基本として、子ども達と必要な都度約束を決めています。約束としては、日常的に守られるものと実行できないからこそ約束として動機づけをしようという、二通りになっています。

「風呂掃除当番」は子ども達で曜日によって当番を決め、できないときには子ども達で交代しながら実践できている守られる約束です。

「テストでよい点を取るまではゲーム禁止」の約束は、具体的な点数を決めて約束していることですが、お手伝いをしたときは特別にゲームをしてよいなどの抜け道があるため、勉強に取り組む動機づけとしては弱いものとなっています。勉強に取り組む姿勢が十分だと思っからこそ、この約束で少しでも勉強に取り組んでほしい所ですが、なかなか子どもに伝わっていないのが現状です。

野原家  
の巻

61



池田町立池田中学校PTA会長 野原 勝樹

## 二通りの約束



★子の思い

\*\*\*\*\*  
コロッケ作り  
\*\*\*\*\*

各務原市立蘇原第二小学校

三年 金武凜花

わたしは、四月十三日、おばあさん家でコロッケ作りを手つだいました。

わたしは、新じゃがを、つぶしたり、コロッケの形にしたり、ころもつけをしたり、コロッケにつけるソース作りを手つだいました。

わたしが一番むすかしかったのは、二つあります。一つ目は、コロッケの形にすることです。わけは、大きくなったり小さくなったりしてしまつてことがあるからです。でも、やっているとちになつていい形ができたのでうれしかったです。

二つ目は、ころもつけです。わけは、こむぎこや、パンこをつけているとコロッケがへんな形になつてしまふからです。でも、くすなひつにこむぎこをきいたら

い形のまま、ころもつけができたのでうれしかったです。

おわたあと、おばあさんに、「ありがとう。」

と言われました。うれしかったです。

あけおわたあと、食べたあとでもおいしかったです。またお手つだいたいです。

\*\*\*\*\*  
つながりを深めて  
\*\*\*\*\*

池田町立八幡小学校

六年 安田光里

私は、毎年冬に、地域の花もち作りの行事に参加します。私は、この行事が大好きです。それは、一緒に活動をしながら、地域のお年寄りの方と色々な話が出来るからです。学校の事や休みの日の過ごし方を話したり、昔の遊びや地域の様子を教えてくださいたいので、いつの間にか仲良くなりました。私が知らない事をたくさん知つていらつしやるので、すごいなあと思います。もつと色々な話を聞きたくなのです。

花もちができあがつた時には、皆さんに「上手にできたね。」と言われて、うれしかったです。私心が温かくなりました。

私の地域では、「八幡ふれあい教育」という三世代で交流する活動が盛んです。花もち作りの他に、花だん作りもしています。私は、これからも進んで参加して、地域の皆さんとのつながりを深めていきたいなと思つています。

\*\*\*\*\*  
伝えたい思い  
\*\*\*\*\*

関市立下有知中学校

三年 山田彩世

私は、家族の言った言葉に対してなぜか反抗してしまいます。しかし、学校や部活動から帰つて来て、勉強がはかどらない日が続いた私にある日、祖母が手紙をくれました。

そこには「いつもおせっかいなことばかり言うけど、勉強が思い通りにいなくて後悔した私と同じような思いはさせたくない」と

★親の願い

\*\*\*\*\*  
今を楽しもうとの大切さ  
\*\*\*\*\*

本巣市立眞桑小学校PTA

会長 林りえ

早いもので、一人息子も小学校

の高学年。私が親になって十年以上が経ちました。子育てといつても息子が成長するにつれ、ひとつずつ自分で出来るが増え十歳になった今では日常生活で親が手助けすることはほとんどありません。

多くの親さんがそうであるようにここまで私も子育てで随分悩んできました。

どうしてそんなことをするのだらう。どうしてそんなこともできないのだらう。どうして…

他の子と比べたり私自身の子ども頃と比べたり、息子にうるさく言ったことも少なくありません。

そんな、子育てに行き詰った時期にある一冊の本に出会いました。

それ以来、私の子育てに対する考え方と自身の生き方に対しての考え方が大きく変わりました。息子は息子、私は私。親子であっても別の人間であり、得意なこと苦手なこと、興味があること、何に幸せを感じるか、何もかも全く違うのだという事にあらためて気づかされました。そしてとても心が軽くなりました。

今では、私も息子も自分が楽しいと感じることを優先に毎日過ごしています。

息子の場合、学校から帰って友

書いてありました。素直になれず、反抗的な態度ばかりとつてしまう私だけど、家族はしっかり自分のことを思つて、いつも声をかけてくれていることを知りました。その時、祖母はなぜ手紙に書いたのだらうと思いましたが、祖母も私のように、恥ずかしくて言葉では素直に表せなかつたのかなと、少し分かるような気がしました。

祖母の思いに、家族に、本当は「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたいはずなのに、恥ずかしくてなかなか伝えられませんか。だから、いつも私のことを思つてくれる家族に、言葉ではなくても、普段の生活で、態度で少しずつ感謝の気持ちを表していきたいと思つています。

校どうだった？何か楽しいことあった？という質問をします。ほとんどは休み時間の遊びの話ですが本当に楽しそうに話してくれます。

親として息子の幸せを願つてあげられることを考えたとき、私に出来ることは息子が楽しいと感じる体験を沢山実現させてあげること、それと同時に苦手なことややりたくないことがあることも受け入れることだと思つています。簡単なようですが、特に後述のやりたくないことがあつても口出しせずに受け入れるのはかなり忍耐力が必要です。

しかし、プラスの気持ちだけ応

大垣桜高校  
まんが研究部

争い



逆さ言葉

よのなかねかおかおかね  
かなのよ  
(世の中ね、顔かお金かなのよ)

出題・川瀬 諒 (大垣市)



援するのではなく、マイナスな気持ちも含めてすべてを受け入れることにこそ意味があるのだと思います。自分のすべてを受け入れられている安心感と、自分が心から楽しいと思えることを自分自身で見極める力は自尊心を育む大切な要素です。

厳しくしてくれる人の大切さ

中津川市立付知中学校PTA 会長 岸竜平

私たちが中学生、高校生の頃、部活の先輩という存在は多少なりと怖い存在でありました。たまには理不尽な事をいう先輩もいましたが、たいていは技術、礼節を厳しく指導してくれる存在であったと思います。

ある日、我が家の夕食時に中学生だった息子が後輩について不満

をあれこれこぼしていたので、私は不思議に思い、「そんな事は先輩であるお前達が注意すれば済むことやないか？」と言うと、何だかハッキリしない返事をする。

「ひょっとして誰も後輩に注意できないのか？」と聞くと、どうもそれらしい返事が返ってきたので、「えっ、いつの時代からそんな風になっちゃったのか」と軽いショックを受けた記憶があります。

彼らはどうも友達関係みたいな上下関係になりきっていて、そこに後輩を指導するという姿勢は感じられません。現代の若者は怒られ慣れてないという話をよく聞きますが、こう言つところにもその原因があるのかなと感じました。叱られ慣れてない子どもが社会人になって、上司や先輩に怒られると精神的ダメージが大きく、ついにはその場所に行く事すら嫌になって「ニート」という人達が増えていくのでしょうか？また私たちの子どもも頃、「ひきこもり」

という言葉は存在しなかったように思います。何しろ親が怖くて(特に父親)病氣以外の理由で学校へ行かないなんて事になったらどんなに怒られるかわかったもんじゃないという思いが常にあったから、人間関係が少々うまくいかなという理由は休む理由になりました。

また多少のいじめが全くなかったわけではありませんが、そういう子どもも休まず来ていたような気がします。このような事を考えていくと、今の世の中は私達の子どもの頃と比べ、叱ってくれる人達が周りに少なくなったな、と感じます。

これは社会にも問題があり、体罰を批判する風潮や、すぐに「何々ハラスメント」だと言われたり、インターネットを利用した投稿が横行する現代社会で厳しくした結果に対する何らかの報復を恐れ、本来叱らなければならぬ状況でも、つい言いたい事も飲み込んでしまつた時代の中で段々と叱って

れる人が減ってきたのかもかもしれません。

しかし、子どもは優しさで厳しさの程よいバランスの中で育っていくのが本来の育ち方であると考えた時、彼らが成長して、(ああ、あの時厳しい態度で接してくれたおかげで今、自分は助かっているな)と感謝する時期がいつかきつと来る事を思うと、今嫌われても叱る強さが必要であり、褒めるべき時には大いに褒めてあげる事が必要だと感じます。

親が最終的に子どもに望む事は、将来親元を離れ、自力で生活するようになった時、どうか起きてくる様々な困難を乗り切つて、自らの人生を明るく楽しく歩んでゆく強さを持つて欲しいということです。私達大人も今一度褒める事と叱る事の大切さを再認識し、それらを上手に使い分け、必要とあらば厳しい態度で接する事が大切だと思います。

教育の窓

大自然の中で育つ子どもたち

高山市立栃尾小学校

教頭 松井健治

私は、今年度から高山市立栃尾小学校に勤務させていただいております。私自身、飛騨高山で育ちましたが、奥飛騨を訪れるのは二十年ぶりのことでした。

新任教頭として、めまぐるしく着任式・始業式・入学式を迎えて三日目、初めての土曜日となりました。少し気持ちにも余裕ができて「自分が勤務をする奥飛騨とは、どんな所なのか。」と知りたくな

りました。そして、家族を誘い校区探検をしました。

本校の校区には「平湯温泉」「福地温泉」「新平湯温泉」「栃尾温泉」「新穂高温泉」と五つの温泉があります。順に回りながら「新穂高温泉」に行ったときのことです。天気にも恵まれ、遠くに槍ヶ岳、煙を上げる焼岳、切り立った錫丈岳が、青空に映えて美しく見えました。ふだんは、思春期で難しい中学三年生の娘も、天然の足湯に浸かりながら壮大な景色に大はしゃぎでした。

その時、遠くで一人の女の子が、旅館の前で遊んでいるのを見かけました。たぶん栃尾小学校の児童

だろうと思い、声をかけました。

「こんにちは。」

「あつ、先生だ。」

「おばあちゃん、先生が来たよ。」と家の中へ駆け込んでいきました。すぐに、ご家族が出てきて丁寧に挨拶をしてくださいました。私が何気なく声をかけたことで、忙しい仕事の手を休めて出てきてくださり、申し訳なく思いました。また、改めて「岐阜県の学校の中には、このような雄大な景色を見ながら育つ子どもたちがいるんだなあ。」と実感しました。

大自然は、私たちの心を和ませてくれます。しかし、大自然は、心を和ませ

るばかりではありません。

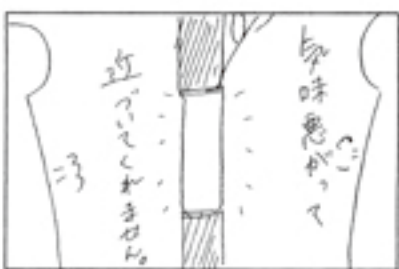
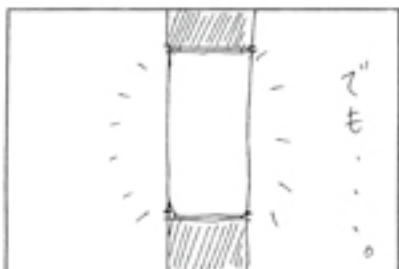
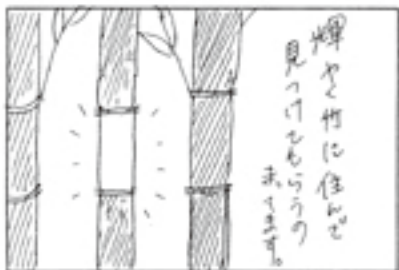
冬の寒さや大雪、野生動物への危険、火山噴火への心配…など「大自然の厳しさ」も教えてくれます。少子化の影響もあり、近所に友だちが少ない…という「現実」もあります。都会の中で育つ子どもた

登山学習の様子



大垣桜高校 まんが研究部

かぐや姫の悩み



逆さ言葉

ようかいかうよ (妖怪買うよ)

出題・戸田 美咲 (可児市)



ちは、都会だからこそ鍛えられる面があるでしょう。それと同じように、この大自然の中で育つ子どもたちは、知らず知らずのうちに大自然に鍛えられる面があると思います。

子どもの姿は大人の『姿』

瑞穂市立穂積中学校

教諭 広田 貞子

新入学生を迎えたばかりのある日、一年生の生徒が上下足の区別をせずに歩いていました。まだ知らないのだなあと思い、声をかけました。すると、その生徒は、「でも、お母さんがいって言ってま

した。」と答えました。あまりにも悪びれない言いつぶりに驚くとともに、思春期を迎える前の子どもにとって、親御さんの言われることは、こんなにも絶対なんだと感心しました。

教員生活の全てを中学校で勤務してきました。思春期真っ只中の生徒との対応は、思つよつにならなことの連続で、途方にくれることも多々ありました。そんな時、ほっとする生徒との触れ合いが私の支えでした。

新しい環境での勤務は、年齢がいついっても緊張するものです。自分の色を出しすぎてしまうまいかと、待ちすぎるか指導のタイミングを逸し、歯車がかみ合わず大変苦しい思いをすることになりました。私にもそういう時期がありました。一人ひとりとのお母さんとの出会いはそんな中でできごうでした。

一人は、苦しい状況の私を励まし勇気づけてくれる存在でした。昼休みや放課後、よく話をしに来

ました。些細な話がほとんどでしたが、時には、私に反発する仲間胸の内を予想した話をしていました。他の生徒との橋渡ししようとしていたのでしょう。そんな彼の思いを確かに受けとめ、その温かさに助けられながら日々を過ごしていました。

ふがいない担任の姿は、ご家庭の話題にもほり、保護者として不安や不満をもっていらしたことでしよう。にもかかわらず、学級懇談の時、一人のお母さんは、「先生、いろいろ大変でしょうけど、うちの子は先生とお話するのがとても楽しいと言っていますよ。」と発言されたのです。その言葉にこもる温かさは一人と同じでした。教師のいたらなさを感じてくださったおかげで、その年も感動的な卒業式を迎えることができました。

生徒と接していると、その裏に生徒を支えてくださるご家庭、保護者の姿を感じることがよくあります。醸し出す雰囲気でもいろいろ

べきものが共通しているのです。子どもは、親の姿を写し出すものだとおもうと思います。

我が子のかわいさは誰しも同じです。ところが、先のことを考えず子どもに浴つこと、ただ甘やかすことが、かわいがることと混同される風潮があります。それでいいのでしょうか。かわいい我が子に力を付けて社会に巣立たせたいというのは、親の願いです。

中学生の時期の子どもたちは、鋭い感性をもっています。『言葉』だけの教えは見抜かれます。普段みせている『姿』こそを、大人である親は、範を示していきたいものです。私自身も我が身を見つめ直し、子どもたちに察していきたいと思えます。



Q1

2020年東京オリンピック・パラリンピックに選ばれたエンブレムに使われている日本の伝統模様は何と



Q2

作曲家の問題です。A~Dのうち、どの組み合わせが正しいでしょうか。

A ショパン ——— 子犬のワルツ  
ベートーヴェン — 運命  
チャイコフスキー — 白鳥の湖



B ショパン ——— 白鳥の湖  
ベートーヴェン — 運命  
チャイコフスキー — 子犬のワルツ



C ショパン ——— 運命  
ベートーヴェン — 白鳥の湖  
チャイコフスキー — 子犬のワルツ



D ショパン ——— 運命  
ベートーヴェン — 子犬のワルツ  
チャイコフスキー — 白鳥の湖

親子ではてな

7月号のクイズ

3月号クイズ答え

Q1 34

Q2 に：伊吹山(いぶきやま)

3月号のクイズ当選者

- 赤堀 怜希(岐阜市) 長瀬 良磨(美濃加茂市)
- 丹羽希里歩(各務原市) 三宅 晴(美濃加茂市)
- 伊藤 慎介(山県市) 戸田 健斗(多治見市)
- 武田隆之介(本巣市) 間野 春紀(多治見市)
- 川瀬 諒(大垣市) 渡邊 恵美(多治見市)
- 勝 有明果(不破郡) 安田 恵輔(多治見市)
- 中島 満月(安八郡) 加藤 真(土岐市)
- 鈴木 麻友(郡上市)

応募方法

応募者は、はがきで、7月末までに下記の宛先へお送りください。  
(1人1枚・当日消印有効)  
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824  
岐阜市北ハツ寺町7  
岐阜県校長会館内  
岐阜県PTA事務局  
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- 7月号クイズの答え
- 郵便番号・住所  
学校・学年・氏名  
保護者名
- 『わが子のあゆみ』への感想・意見
- 「なぞなぞ」の問題と答え
- 逆さ言葉



お試し  
クッキング

# 夏野菜のカレー



岐阜県学校栄養士会

大人も子どもも**カレー**が大好き!夏の暑い日も、ピリッとした辛さで、食欲をそそる**カレー**ならおいしく食べることができると思います。今回は、手作りのルーで作るカレーをご紹介します。カレー粉の量は、お好みで調整して下さい。具には、疲労回復に役立つビタミンB1を多く含む豚肉や、トマトやかぼちゃ、なすといった夏の野菜を、たっぷり使用しています。野菜嫌いな子ども、**カレー**に入ると、ペロリと食べてしまいます。なすやトマトは形がなくなるくらいまで、よく煮込み、かぼちゃは形を残すように作って下さい。ご飯の他に、ナンを添えても、目先が変わって楽しめます。夏バテ知らずで、元気に夏を過ごしましょう。

## 作り方

- ① にんにく、しょうがはみじん切りにする。なすは、いちょう切りにし、水にさらす。
- ② たまねぎは、くし型に切る。かぼちゃは、2cm角に切る。
- ③ トマトは皮を湯むぎして、1cm角に切る。
- ④ 豚肉は、食べやすい大きさに切る。
- ⑤ 鍋かフライパンにバターを溶かし、小麦粉を、弱火でゆっくり茶色になるまで炒め、ブラウンルーを作り、カレー粉を混ぜ合わせておく。
- ⑥ 鍋にサラダ油を入れ、にんにく、しょうがを焦がさないように炒め、香りを出し、豚肉を入れ、塩、こしょうをして炒める。肉に火が通ったら、たまねぎを加え炒め、さらに、水をぎったなすを加えて、よく炒める。
- ⑦ ⑥に材料がかぶるくらい水を入れ、ローリエを加えて煮る。煮たったら、アクをとり、チーズを加え完全に煮溶かす。
- ⑧ ⑦に、トマト、Aの調味料、かぼちゃの順に加えて煮る。
- ⑨ ローリエをとりだし、⑤のカレールーを入れて煮溶かし、とろみを調節しながら、水を加え、よく煮込む。
- ⑩ 牛乳を加えて、ひと煮立ちさせる。
- ⑪ 適量のご飯にかける。

## 材料 4人分

豚肉(平切り).....	120g
塩.....	少々
こしょう.....	少々
サラダ油.....	小さじ1/2
にんにく.....	1片(3g)
しょうが.....	1片(3g)
なす.....	中1本(100g)
たまねぎ.....	中1個(200g)
かぼちゃ.....	120g
トマト.....	中1/2個(100g)
チーズ.....	15g
小麦粉.....	20g
バター.....	20g
カレー粉.....	4g
洋風スープの素.....	5g
ケチャップ.....	大さじ2
ウスターソース.....	大さじ1
塩.....	小さじ1/3
ローリエ.....	1~2枚
牛乳.....	大さじ3

A

## ●栄養価(1人分)

エネルギー.....	231kcal
たんぱく質.....	9.3g
脂質.....	11.6g
カルシウム.....	72mg
鉄.....	1.1mg
亜鉛.....	1.2mg
ビタミンA.....	159μgRE
ビタミンB <sub>1</sub> .....	0.30mg
ビタミンB <sub>2</sub> .....	0.16mg
ビタミンC.....	22mg
食物繊維.....	3.3g
塩分相当量.....	2.1g

※ごはんを含まない栄養価です。



■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の回答とともに送って下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7  
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

## ■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4~5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

## ■平成28年度県PTA連合会広報委員

今年度の広報委員の方々をご紹介します。本誌「わが子のあゆみ」や「岐阜県PTA新聞」の発行・購読促進活動を行います。

▷委員長=渡邊 聡(郡上市相生小)

▷顧問=中野真由美(岐阜市合渡小・校長会)

▷担当副会長=田口淳也(下呂市下呂中)

▷副委員長=西尾尚美(岐阜市岐阜西中・岐阜地区)

▷委員=瓜野秀典(山県市高富小) 牧野英紀(大垣市南中) 井澤秀明(可児郡上之郷小) 野平哲朗(瑞浪市瑞浪中) 西田孝雄(飛騨市古川小) 中島仁美(不破郡垂井小・西濃地区) 和田望美(郡上市明宝小・美濃地区) 兼松仁美(加茂郡坂祝中・可茂地区) 渡邊邦昭(多治見市平和中・中濃地区) 今井嘉彦(下呂市萩原北中・飛騨地区)

▷都市代表広報委員=井亦あゆ美(羽島市中央小) 岡崎留美子(各務原市桜丘中) 岩田 漢(羽島郡西小) 棚橋佳帆里(瑞穂市穂積小) 福田里奈(本巣市根尾小) 田中千鶴(本巣郡北方中) 小森康弘(山県市いわ桜小) 若山浩司(大垣市青墓小) 山口明美(海津市海西小) 桐山智和(養老郡広幡小) 岩田育南(安八郡名森小) 野原英嗣(揖斐郡春日小) 長屋克隆(関市板取小) 永田幸泰(美濃市大矢田小) 長瀬浩氏(美濃加茂市太田小) 木全直介(可児市南帷子小) 納土美穂(加茂郡川辺西小) 平田祐二(可児郡向陽中) 田中直貴(土岐市濃南中) 小栗 智(瑞浪市日吉小) 保母伸治(恵那市飯地小) 小木曾智仁(中津川市落合小) 中丸雅裕(高山市東山中) 村坂壽紀(飛騨市古川小)

▷事務局編集長=渡辺良夫

## ■編集後記

24年前の1992年(平成4年)7月27日。バルセロナで行われたオリンピック女子競泳200m平泳ぎ。6日前に14歳になったばかりの女子中学生岩崎恭子さん(沼津市立第5中学校2年)が、当時の五輪新で金メダルを獲得しました。レース直後のインタビューで語った「今まで生きてきた中で、一番幸せです。」は語り草に。そして、日本選手としての五輪メダル獲得の最年少記録は今も続いています。

今夏(8月5日から)リオデジャネイロで行われるオリンピック。競泳女子個人メドレーに今井月さんが出場します。3月まで岐阜西中学校に在籍し、4月から高校へ入学した15歳です。中学時代に世界選手権出場標準記録を突破したものの着順で出場できませんでした。実力は世界水準です。2020年の東京五輪を視野に入れながら、まずはリオで。岐阜県にこんなに素晴らしい選手が誕生したのは、嬉しいことです。活躍を楽しみに、応援をしましょう。

岐阜県PTA連合会ホームページのQRコードです。「わが子のあゆみ」のバックナンバーが閲覧できます。



## ■なぞなぞの答え

①影 ②歳をとったから

## ■9月号のお知らせ(予告)

特集=定期大会記念講演「子育て 大切な視点 前編」安藤大作さん/表紙=名森小/学校のたからもの=常磐小・大和第一北小・下米田小・神岡中/わが家の宝物=垂井小/家庭教育応援団/療育=中濃特別支援学校/お弁当の日=共栄小/保健室ノート=美濃小/私の先生=揖斐小/半生記=那加第二小/一冊の本=南ヶ丘小・高田中/わが家の約束=帷子小・北方中/ボランティアニュース=三枝小・新宮小・朝日小・東山中/子の思い=堀津小・中川小・坂祝中/親の願い=北栄小・神戸中/教育の窓=牧谷小・青山中/お試しクッキング/ふるさとの伝承=太田小/きらり!キッズ! =落合小/我がが部活=美濃加茂市東中/私たちのPTA=合渡小

# わが子のあゆみ

平成28年7月1日 発行  
初夏号 第68巻1号  
通巻第443号

頒価 200円(年間1,000円)

\*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部  
発行/岐阜県PTA連合会  
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内  
電話/058-262-3257 FAX/058-262-3259  
ホームページ/http://www.g-ppta.com  
Eメール/info@g-ppta.com  
印刷/サンメッセ株式会社



# ふるさとを愛し、 自他の命を大切にする生徒

これは学校の教育目標です。明宝地域は、豊かな歴史や文化が残る山紫水明の地です。地域と学校が一体となった様々な取り組みを通して、ふるさと明宝への愛着と誇りを育んでいます。

一年生では、総合的な学習の時間を中心に「磨墨太鼓の学習」を行っています。「磨墨」とは、今をさかのぼること八百年、明宝気良の里で生まれた二頭の牝馬です。黒く精悍な容姿と天馬のように活発に野山を駆け回るその様が都に伝わり、源頼朝の軍馬となったと伝えられています。その後、「磨墨」は幾多の戦で活躍し、名馬としてその名を天下に響かせました。

磨墨太鼓は、郷土の誇りである名馬の栄誉を称え、末永く後世に語り継ぐために保存会が結成されています。磨墨太鼓の学習では、保存会の方々に講師として招き、演奏技術とともに、磨墨太鼓やふるさと明宝に対する思い、願いを学びます。九月からの基本打ちの練習に始まり、十一月の文化祭、十二月の明宝フェスティバル(地域の文化祭)での発表を目指して取り組みます。

二年生では、ふるさと明宝を語り伝える「聞き書き学習」を行っています。学習の終末には、明宝の昔の様子やそこで生きてきた人の

の思いを作品(聞き書き集)としてまとめます。始めに地域のお年寄りを学校に招き、グループに分かれてインタビュー形式で話を聞きながら録音します。その後、録音したテープから文字起こし、原稿を作成していきます。生徒たちは、地域のお年寄りの話を聞き、文字に残していく活動を通して、明宝ならではの風習や文化などに触れ、琴線が揺さぶられます。まさしく明宝のDNAを受け継いでいく取り組みです。

これらの活動を通して、明宝を愛し文化・伝統芸能を継承する熱意ある地域の方々や昔から今につながる明宝を生き抜いていらつしやったお年寄りの方々の知恵や生き様から、生徒たちはふるさと明宝の一員としての自覚を高めていきます。中学校在学中はもとより、卒業後も各地区で行われる祭礼や地域行事等に関わり続けています。それは、ふるさと明宝に愛着と誇りを持ち、これからの自分の生き方を見つめようとする生徒たちの姿でもあるといえます。



▲明宝フェスティバル(地域の文化祭)での発表の様子



▲磨墨太鼓の練習風景



▲磨墨太鼓の学習を終えての壁新聞



▲原稿の編集作業の様子



▲地域のお年寄りから話を聞いている様子



◀完成した「聞き書き集」



# きらり！キッズ！

郡上市立大和南小学校は、全校児童二〇七名の学校です。古今伝授の里大和町の南に位置し、短歌と能の学校として、地域の伝統を大切にしながら、地域・保護者の協力のもと、学校の教育目標「心豊かでたくましい子」の達成に向けて、取り組んでいます。その中から、伝統を受け継ぐ「短歌と能」、児童会による「掃除」ノート展「なかよしチーム活動」について紹介します。

## 伝統を受け継いで《古今伝授の里まつり・薪能》

京都から観世流能楽師の先生に来ていただき、能・謡の学習に、五年生が取り組んでいます。その成果を、毎年「古今伝授の里祭り」と「薪能」の場で披露します。昨年度は新たな演目「合浦」で、五年生が謡い六年生が舞うことに挑戦しました。仕舞に取り組むだけでなくその歴史も学びました。「緊張した」と言いながらも晴れの舞台で大勢の方に見ていただき、やりがいを感じた子どもたち。守り引き継ぐ思いとふるさと大和を見つめる目を育てていきたいと思っています。



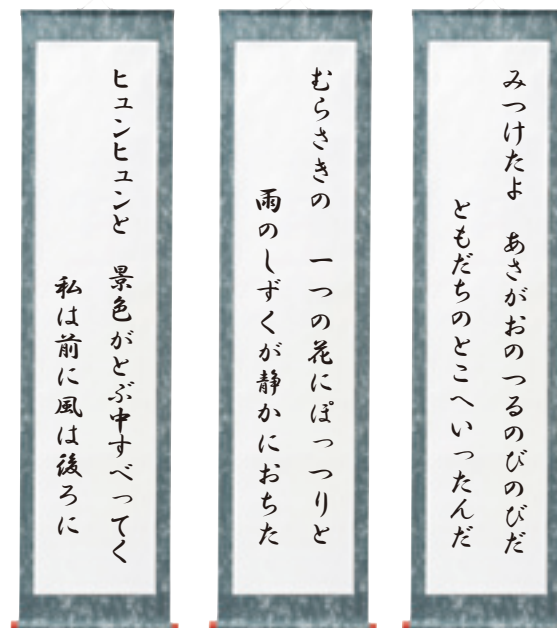
松明の灯りの中、8月7日の薪能で、仕舞「合浦」を披露する子どもたち



緊張した。でも、楽しかった

## 伝統を受け継いで《短歌活動》

児童会行事・各種コンクール応募をはじめ、日々の生活の中でも短歌活動に取り組んでいます。年一回の短歌教室で、講師の先生に指導を受けながら創作活動に励んでいます。素直な気持ちそのままに三十二文字に表すことを大事にしており、抵抗感少なく取り組める子どもが多いです。毎年一月に発行する短歌集「かがやき」を六年間読み比べてみると、子どもたちの成長、表現力の高まりを感じることが出来ます。



みつけたよ あさがおのつるのびのびだ  
ともだちのどこへいったんだ

むらさきの 一つの花にぼつぷりと  
雨のしずくが静かにおちた

ヒュンヒュンと 景色がどぶすべって  
私は前に風は後ろに

## 児童会活動

大和南小学校では、仲間委員会・健康委員会・学習委員会の三委員会が児童会活動を支えています。健康委員会では、掃除や体づくりに取り組んでいます。特に掃除では新たな活動として「さ・し・す・せ掃除」に取り組んでいます。

自発的な活動として高学年による登校後の草取りが伝統的に行われているよさを受け継ぎ、自分たちの生活の場を誰もが気持ちよく使えるように進んで取り組む姿をめざしています。

学習委員会では、よりよいノートを掲示によって紹介するだけでなく、昨年度は、全校で自分の自慢のページを見合うノート展を企画しました。よりよい学びが身につくように、児童・職員ともに取り組んでいます。

- さ：最後まで、し：静かに、
- す：すばやく、せ：責任をもって



各教室の自慢のノートを見合う子どもたち



児童集会で成果を発表する健康委員

見つけ掃除でドアの隙間掃除を



登校後、鞆を置くと草取りを始める高学年

こんにちは会  
手を取り、「さあ頑張る！」



チームこんにちは会  
1年生を気遣う上級生

地域の挨拶を  
高める取組み



なかよし集会で、ゲームを  
楽しむ子どもたち

仲間委員会では主に挨拶・なかよしチーム活動に取り組んでいます。児童玄関前での毎朝の挨拶運動に始まり、職員室へも元気よく挨拶をしたり、挨拶のよい姿を放送で紹介したりする活動を継続して行い、校内での挨拶の姿が高まっています。昨年度は、新たに地域での挨拶キャンペーンを始め、課題だった地域での挨拶を高めようと、取り組みました。課題克服の動きを自分たちの手で行える子どもたちをめざしています。

子どもたちが大事にしている「なかよしチーム」の活動には、「こんにちは会」「なかよしジャンプ」「なかよし集会」があります。チームリーダーを中心に、「互いの仲を深める・思いやりの心を育てる・責任をもってやりきる」願いをもって取り組んでいます。



## 美術部



- ①部員全員 岐阜県青少年美術展入賞
- ②日々の活動を大切に頑張っています。作品制作を通して、自分と向き合いながら取り組んでいます。

## ICT部



- ①全員が楽しくパソコンに触れ合うことができる。
- ②タイピング練習や、インターネットによる検索など、パソコンに親しみ、技能を高めるために活動しています。

## バレーボール部



- ①まず一勝 明るく前向きにプレーできるチーム
- ②先輩・後輩関係なく、何でも言い合えるような仲間関係を築きます。

## 吹奏楽部



- ①夏のコンクール金賞獲得
- ②昨年度のコンクールの悔しさをバネにして、部員19人みんなで目標に向かい、頑張っています。

## 剣道部



- ①中体連で力を出しきる。
- ②今年は男女共に団体戦に出られます。1回1回の稽古を大切に、明るく、元気に取り組んでいます。

## 男子バスケットボール部



- ①県大会出場
- ②全員で精一杯声を出し、明るい雰囲気を作ります。みんなで本気になって練習に取り組むことで自分たちのバスケをします。この仲間と最高のチームを！

## 女子バスケットボール部



- ①地区大会出場
- ②楽しみながらも、時に厳しく、時に本音でぶつかり合って、互いに高め合うことを大切にしています。切磋琢磨して、最高のチームワークを築きます。

①目標 ②大切にしていること

## 女子ソフトテニス部



- ①団体戦地区大会出場
- ②お互いの成長を目指して、アドバイスし合ったり、一球一球を大切に追ったりしながら、日々練習しています。

## バドミントン部



- ①団体・個人で1つでも多く勝つ。
- ②全員の技術の向上 挨拶・準備・片づけ みんなで辛い練習も乗り越えています。

## 陸上部



- ①全員が新記録を出すこと
- ②「仲間と楽しむこと」「互いに高め合うこと」「頑張ったことを認め合うこと」楽しいメンバーと共に毎回の部活を充実させています。

## 男子ソフトテニス部



- ①団体戦県大会出場
- ②「礼節を重んずる」「美しく整える」「質の高いものを求める」の3つの校風を大切に頑張っています。

## 軟式野球部



- ①中体連初戦突破
- ②技術面だけでなく、礼儀・マナーを大切に、常に全力プレーをモットーに取り組みます。

## サッカー部



- ①県大会出場
- ②技術の向上だけでなく、集合やあいさつなどの礼儀も大切に、チームの力を高めていきます。



# 私たちのPTA

安八町立登龍中学校PTA

平成二十八年登龍中学校PTAスローガン

心身ともに健康で、たくましい生徒をめざし  
学校・家庭・地域社会の連携を深めよう。

## はじめに（学校紹介）

本校は昭和二十二年に創立された歴史ある学校です。校区は、長良川と揖斐川に挟まれた濃尾平野北西部に位置し、豊かな自然に恵まれているため、県内有数の穀倉地帯となっています。一方、昭和五十一年の集中豪雨により、長良川堤防が決壊し、校舎が浸水するという大きな自然災害を経験した歴史ももっています。

近辺には百種・千本以上の梅が觀賞できる「百梅園」や天文台・プラネタリウム・歴史民俗資料館を備えた「ハートピア安八」などがあり、文化的な環境にも恵まれています。

こうした中、学校の教育目標である「他を思いやり 自ら学び 鍛え合い やり切る生徒」の具現をめざして、特色ある教育活動を推進しています。

## 具体的な活動

本校PTAは、スローガン「心身ともに健康で、たくましい生徒をめ

ざし、学校・家庭・地域社会の連携を深めよう。」のもと、実行委員会、生活指導委員会、保健安全委員会、母親委員会、広報委員会、学年委員会、地区委員会の各委員会が協力し合い、活力あるPTA活動を展開しています。

活動を進めるにあたり、大切にしたいと考えていることが三つあります。

「子どもの安全、命」「子どもとの時間と感動の共有」「地域とのつながり」の三つです。



生徒に負けじとPTAも熱唱



PTA親子奉仕作業



PTA講演会



文化祭で全校生徒が「第九」を合唱

### ①「子どもの安全、命」を大切に活動

生活指導委員会では、「子どもたちの安全を守る」をテーマに二人一組で、毎月二〜三回、夜間に巡回をしています。コンビニ、公園、学校周辺など、夜に人が溜まりやすい場所を中心に巡回し、危険箇所はないか、子どもだけでの夜間徘徊はないか、などを見回っています。子どもがいたら声をかけ、安全な帰宅を見届けています。

保健安全委員会では、「親の目で守る子どもの命」をテーマに毎月第一月曜日の朝に、交通量の多い通学路や危険な場所に立ち、交通ルールを守って通学できているか、カバンのくくりつけ方や服装はいいかなど、子どもの様子を見届け、一人ひとりに声をかけながら、笑顔で送り出しています。

どちらの委員会も、子どもたちがいれば声をかけ、また気付いたことなどは「巡回日記」に記述して、学校に毎回提出します。学校では、必要に応じてその内容について指導していただいています。

### ②「子どもとの時間と感動の共有」

夏休み中には、親子奉仕作業とともに汗を流しています。子どもたちが気持ちよく二期を迎えられるよう、昨年度はグラウンド側溝の土上げ、除草、自転車置き場の屋根掃除、特別教室の整備などを行いました。

十月にはPTA講演会を開催し、様々な分野の講師を招いて、親子で話を聴いています。昨年度は音楽工房「夢のかほばや」店主長島りょうが先生をお招きし、人と人をつなぐやさしさやぬくもりについて音楽を交えながら講話を聴きました。

十一月に行われる文化祭では全校生徒が世界的に親しまれているベートーヴェンの交響曲第九番の全楽章を原語で合唱しています。第九を全校で合唱することが学校として地域の伝統となり、生徒たちは綿々と受け継がれてきているこの合唱を誇りとしています。

## 親子でボランティアに参加



小中合同地区集会

おやじの会による生き方を学ぶ講話



夜間の練習を始め、本番に向けて仕上げていきます。昨年度は学校の先生を含め約八十名による合唱団となりました。生徒たちの大きな声援と拍手が励みになっています。

そのほか、学年委員会は、三年生が卒業式で胸につけるコーサージュ作りのお手伝いをしています。コーサージュは、二年生生徒一人ひとりが感謝の気持ちを込めて作りますが、PTAの学年委員会は、生徒の活動がスムーズにできるように、事前に講習を受けて、感動の卒業式を演出しています。

以上のように、ともに汗を流し、ともに時間を過ごし、ともに感動を味わう取り組みを行い、子どもとの心のつながりを育んでいます。

### ③「地域とのつながり」

母親委員会では、ボランティア活動を通して、地域とのつながりを強めています。

夏は、「安八町社会就労センター」ひかりの里の清掃ボランティア、「特別養護老人ホーム」あすむら夏祭りボランティアに、親子で参加しています。秋は、「町社会福祉大会」で綿菓子販売のお手伝いを親で行います。

こうした地域の方々と交流を通して、子どもたちの一生懸命な顔や笑顔を見ることができ、さらに子どもたちのボランティア精神を育てることができます。

### ④「その他の活動」

広報委員会では、このような登龍中学校の姿を、PTA会員だけでなく、地域の方々に知っていただくため、年三回発行の広報誌「登龍」を地域配布しています。地域全体に学校の様子を伝えることで、学校を支え、応援しようとする気運が高まっています。

その他、PTA会員全体の取組みとして、朝のあいさつ運動への参加があります。全委員会が年間を通して一回ずつ、子どもたちの登校時に校門に立ち、あいさつをしています。子どもたちの登校の姿を知り、気持ちのいいあいさつができるようになることを願って取り組んでいます。

また、夏休み前に小中合同地区集会を実施しています。小中学校の保護者と先生方、地域の方々が集まり、子どもたちの家庭や地域

## おわりに

での過ごし方についてテーマを決めて話し合っています。地域の方々と直接話をするので、地域全体で子どもを育てる意識が高まっています。

さらに、登龍中学校にはおやじの会があります。子どもたちの成長を願い、学校行事に積極的に参加しよう」を合い言葉に、平成十七年に発足し、現在は六十名を超える会員数になりました。子どもが卒業されても、メンバーに残り、様々な活動にご協力をいただいています。PTA主催の学校行事への参加協力、子どもたちの活動支援が中心ですが「生き方を学ぶ」授業と称し、おやじ自らが講師となり、子どもたちにあいさつの大切さや約束を守る重要性等、体験に基づいた話をすることもあります。

本校PTAは、各委員会の様々な活動を通して、少しでも親子が触れ合う機会を増やし、子どもとの関わりをもち続けていければよいと考えています。子どもを見守り、健全に育てていけるよう、これからも多くの保護者の皆さんが参加しやすいような活動を工夫していきたいと思えます。



卒業生へコーサージュを贈るお手伝い